履　修　要　覧

令和７年度
（２０２５）

INTERNATIONAL
BUDDHIST
UNIVERSITY

四天王寺大学大学院

授業時間

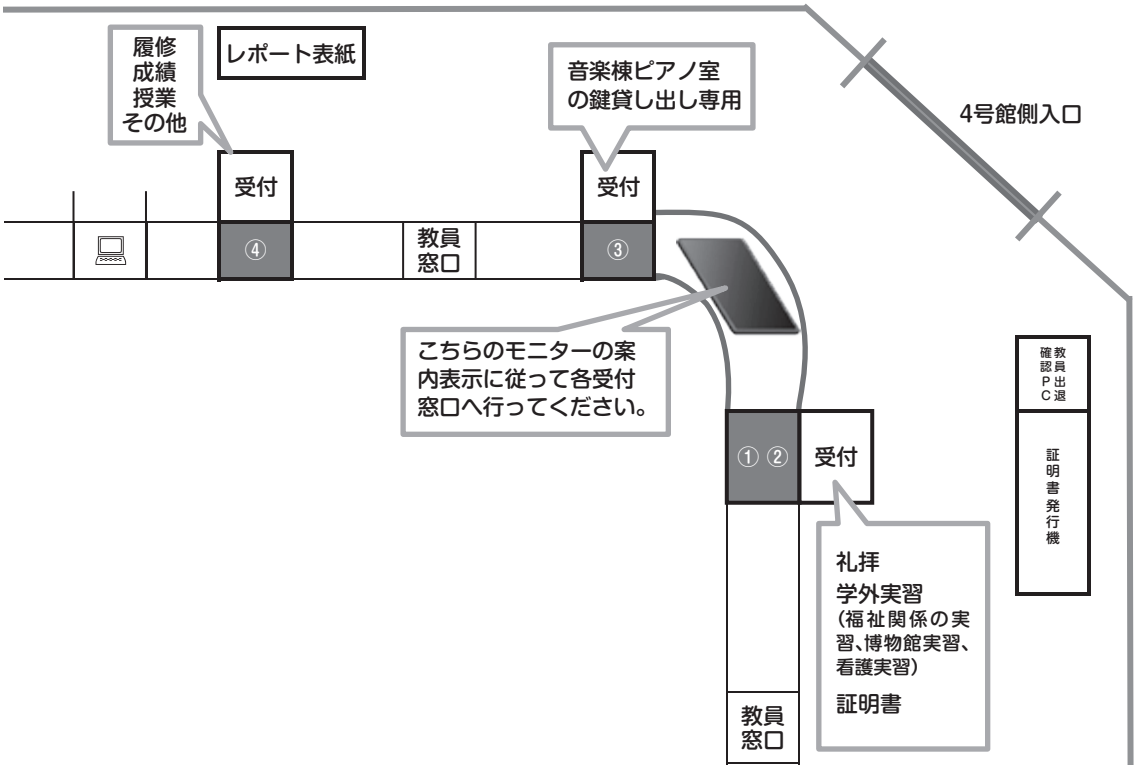
	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限
授 業 時 間	9:00〜10:40	10:55〜12:35	13:25〜15:05	15:20〜17:00	17:30〜19:10	19:20〜21:00

教務課受付対応窓口について

教務課窓口受付について

教務課受付時間：9：00〜17：30
月曜日〜金曜日・祝日除く
土曜日　9：00〜17：30
受付時間外の問い合わせには対応できません。
※11：35〜12：25 は当番者のみでの対応になります。

教務課へ用件がある場合は、教務課入口（4 号館側）のモニターの案内表示に従い、担当受付窓口で問い合わせてください。受付窓口以外では対応できませんので、順番に並んでください。
※窓口の位置は変更することがありますので、モニターで必ず確認して下さい。



目次

令和７年度学年暦 …… 2

人文社会学研究科　人間福祉学専攻 …… 3
Ⅰ　人間福祉学専攻の概要 …… 3
Ⅱ　履修要項
1　履修の方法と単位修得 …… 8
2　博士前期課程の科目と履修 …… 9
3　博士後期課程の科目と履修 …… 12
4　授業科目一覧 …… 19
5　ナンバリングについて …… 24
6　履修系統図 …… 24
6-1　博士前期課程 …… 26
6-2　博士後期課程 …… 28

看護学研究科　看護学専攻
Ⅰ　看護学専攻の概要 …… 31
Ⅱ　履修要項
1　履修の方法と単位修得 …… 38
2　博士前期課程の科目と履修及び修了までの流れ …… 39
3　博士前期課程修了の基本スケジュール …… 43
3-1　標準修業年限２年 …… 43
3-2　長期履修３年 …… 44
4　授業科目一覧　博士前期課程　研究者コース …… 45
授業科目一覧　博士前期課程　専門看護師コース …… 47
5　博士前期課程　履修モデル …… 49
5-1　基盤看護学分野 …… 49
5-2　生涯発達看護学分野 …… 50
5-3　広域看護学分野 …… 51
6　博士後期課程の科目と履修及び修了までの流れ …… 52
7　博士後期課程修了の基本スケジュール …… 57
7-1　標準修業年限３年 …… 57
7-2　長期履修４年 …… 58
8　授業科目一覧　博士後期課程 …… 59
9　博士後期課程　履修モデル …… 60
10　研究計画審査 …… 61
10-1　研究計画書審査手順 …… 61
10-2　研究科委員会による研究計画書判定後の流れ …… 62
11　後期課程学位授与申請手続の流れ …… 63
12　ナンバリングについて …… 64
13　履修系統図 …… 65
14-1　博士前期課程　研究者コース …… 66
14-2　博士前期課程　専門看護師コース …… 68
14-3　博士後期課程 …… 70

学則･諸規程等 …… 73

令和７年度　大学院　学年暦　（令和７年４月 ～ 令和８年３月）

夏学期

令和7年

４月１日㈫	夏学期履修登録期間 ４月１日㈫～４月８日㈫ 人文前期　研究題目届･指導教員選定(変更)届提出期間 ４月２日㈬～４月30日㈬ 人文後期　指導教員選定(変更)届提出期間 ４月２日㈬～４月30日㈬
４月２日㈬	入学式･オリエンテーション(新入生)
４月４日㈮	健康診断
４月５日㈯	健康診断(予備日)
４月７日㈪	夏学期開講
４月15日㈫～４月18日㈮	夏学期履修訂正期間
４月19日㈯	終日休講、新入生授戒会
４月29日㈫	(祝日)火曜日授業
５月３日㈯	(祝日)土曜日授業
５月９日㈮	看護後期･論文予備審査書類提出締切(9月修了)
５月21日㈬～５月28日㈬	人文前期　研究計画書、論文題目届提出期間 人文後期　年次研究計画書提出期間
６月４日㈬	土曜日授業
６月22日㈰	水無月祭
７月11日㈮	看護前期･後期学位審査書類締切(9月修了)
７月16日㈬	夏学期終講
９月12日㈮	夏学期学位授与式(9月卒業生)

冬学期

令和7年

９月12日㈮	冬学期入学式(9月入学生)
９月17日㈬～９月22日㈪	冬学期履修登録期間 ９月17日㈬～９月22日㈪ 冬学期開講　９月20日㈯
９月26日㈮	看護前期･後期　製本提出締切(9月修了)
10月１日㈬～10月３日㈮	冬学期履修訂正期間
10月13日㈪	(祝日)月曜日授業
10月14日㈫～10月17日㈮	人文前期･後期　論文題目変更届提出期間
10月31日㈮	終日休講(大学祭準備日)
11月１日㈯～11月３日㈪	終日休講(大学祭)
11月４日㈫	終日休講(大学祭後片付け)
11月５日㈬	火曜日授業
11月14日㈮	看護後期　論文予備審査書類提出締切
11月24日㈪	(振替休日)月曜日授業
12月５日㈮	人文後期　博士学位申請書類提出締切
12月27日㈯	12月授業終了

令和8年

１月５日㈪	１月授業開始
１月５日㈪～１月10日㈯	人文前期　学位論文提出期間
１月８日㈭	補講日
１月９日㈮	冬学期終講 看護前期･後期　学位審査書類締切
１月26日㈪～１月30日㈮	人文前期　口述試験
２月22日㈰	学園創立記念日(事務局休業)
３月13日㈮	学位授与式
３月27日㈮	看護前期･後期　製本提出締切(3月修了)

＊聖徳太子讃仰会・・・・・・毎月22日
＊学年暦は、「大学院学則」第５章の規定に基づくものである。学年暦の変更は、その都度掲示する。
＊実習は平常の授業以外の日程で行う場合がある。

人文社会学研究科
人間福祉学専攻

Ⅰ　人間福祉学専攻の概要

本学の教育方針

教育（専攻）の目的

人間・福祉・仏教をキーワードに、社会福祉の理論と実践に関する高度な学識を養い、社会福祉における基礎的・体系的な研究能力を備えた社会福祉各領域の専門家及び指導者の養成を目的とする。

「修了認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

本研究科は、建学の精神である「和の精神」を大切にしながら、社会福祉の独自性・専門性を身につけ、精深な学識ならびに広い視野をもち専門的な業務に従事するに必要な研究能力を修得した福祉専門職、研究者、教育者となる人材を育成する。

博士前期課程

① 基本的・体系的な研究能力を修得している。

仏教精神に基づいた自立と共生についての理解を深め、基本的・体系的な研究能力を修得している。

②社会福祉に関する高度な専門性を修得している。

社会福祉の各領域・分野における専門知識、問題解決能力、社会福祉実践能力などの高度な専門性を修得している。

③指導的役割を担う力を修得している。

社会福祉の実践の場において指導的役割を担い、スーパービジョンができる。

博士後期課程

① 精深な学識と高度な研究能力を修得している。

仏教精神に基づいた自立と共生についての理解を深め、広い視野に立つ精深な学識と高度な研究能力を修得している。

② 社会福祉に関する高度な専門性と研究を継続していく力を修得している。

社会福祉の各領域・分野における高度な専門性をもち、変化し続ける社会状況における様々な社会福祉問題の研究を継続していく力を修得している。

③ 明確な研究テーマと新たな知見を生み出す力を修得している。

明確な研究テーマを持ち続けることにより、先見的かつ実証的な社会福祉に関する新たな知見を継続して生み出していく力を修得している。

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

本研究科における「修了認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）で掲げた人材を養成するために、人間福祉をキーワードとし、各専門分野を体系的に網羅した授業科目を配置した教育課程編成をおこなっている。

博士前期課程

1）社会福祉の理論と実践に関する高度な学識を養い、社会福祉における基礎的・体系的な研究能力を備えた研究者ならびに高度の専門性を有する社会福祉各領域の専門家及び指導者の養成を目的とした専門科目を配置している。

2）カリキュラムは「基礎理論分野」「政策･制度分野」「援助技術分野」の３分野を中心に編成し、それぞれに専門講義科目、専門演習科目、専門研究科目を開講している。

博士後期課程

1）専門的な研究指導のもと博士前期課程における研究を深化させ、社会福祉の専門研究者として自立して継続的に研究する能力を養い、その学問的体系を構築しうる高度の見識と豊かな学識を具備する研究者・教育者ならびに高度の研究能力と指導力を持つ専門的人材養成を目的とした教育課程を編成している。

2）カリキュラムは「基礎理論分野」「政策･制度分野」「援助技術分野」の３分野を中心に編成し、それぞれに特殊研究科目、特殊演習科目、特殊講義科目を開講している。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

本学の建学の精神と本研究科における育成する人材、「修了認定･学位授与の方針」（ディプロマ･ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、受け入れる入学者に次のような能力を求める。

博士前期課程

1）人と人が切り離され孤立していくことが多い現代社会において、本学の建学の精神である仏教精神、すなわち自己を知り他者を尊重する精神を持ち、それを実現できる人

2）社会福祉の基礎知識と総合的な学力及び理論的・実践的に研究する能力を持ち、研究に対する真摯な姿勢を持ち、学究に努力する人

3）少子高齢化、グローバリゼーションの進展等により増大する生活課題に関する社会福祉の向上に対しての熱意を持ち、それを実現できる人

博士後期課程

1）本学の建学の精神である仏教精神、すなわち自己を知り他者を尊重する精神を持ち、且つ研究に対する真摯な姿勢を持ち、学究に努力する人

2）社会福祉領域に関する高度な専門知識と研究能力を身につけ、優れた研究を行うことができる人

3）様々な社会問題・生活問題に対する知見を備え、その解決のために自ら問題点を発見し、それを解決しうる高い能力を持っている人

人文社会学研究科
人間福祉学専攻

Ⅱ　履修要項

1　履修の方法と単位修得

<table>
<tr><td>履修方法</td><td>⑴ 履修する科目については、定められた期間にIBU.netで履修登録を完了すること。
履修訂正期間後の履修登録変更は認められない。
夏学期　登録期間：４月１日（火）～４月８日（火）
訂正期間：４月15日（火）～４月18日（金）
冬学期　登録期間：９月17日（水）～９月22日（月）
訂正期間：10月１日（水）～10月３日（金）
⑵ 履修登録の際には、事前に主たる研究指導教員への報告を必要とする。</td></tr>
<tr><td>単位修得</td><td>⑴ 単位の認定は、授業への出席と、試験またはレポートの提出等をもっての合格によって行われる。
⑵ 単位の修得及び試験については、別に定める「四天王寺大学大学院履修規程」による。</td></tr>
<tr><td>成績の評価</td><td>本学の成績評価は、以下の基準に基づいて行う。
<table><tr><th>評 価</th><th>基　　準</th></tr><tr><td>秀</td><td>目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている（90点以上）</td></tr><tr><td>優</td><td>目標を十分に達成している（80点以上90点未満）</td></tr><tr><td>良</td><td>目標を達成している（70点以上80点未満）</td></tr><tr><td>可</td><td>目標を最低限度達成している（60点以上70点未満）</td></tr><tr><td>不合格</td><td>目標を達成していないので再履修が必要である（60点未満）</td></tr><tr><td>認</td><td>他大学院において修得した単位等</td></tr></table></td></tr>
</table>

２　博士前期課程の科目と履修

履修科目	⑴ 授業科目群は、専門講義科目（以下「特論」という。）、専門演習科目（以下「演習」という。）、専門研究科目によって構成され、各科目は半期で２単位となる。（ｐ.19～21 参照） ⑵ 授業は次の要領で履修し、合計30単位以上を修得しなければならない。 ①演習12単位：主研究指導教員の担当する科目を２年間にわたって８単位履修する。 加えて副研究指導教員の担当する演習科目４単位を履修する。 ②特論８単位：主研究指導教員の担当する科目を４単位と、主研究指導教員の指定した科目を４単位履修する。 ③選択科目10単位以上：演習及び上記②を除く授業科目より３科目10単位（1科目は半期）を履修する。 ⑶ １年次においては、履修登録制限を24単位以内とする（学部の履修登録を含まない）。 ⑷ 主研究指導教員の講義科目は「○○○研究Ⅰ・Ⅱ」（例：「社会福祉学研究Ⅰ・Ⅱ」など）を履修すること。 副研究指導教員の講義科目は「○○○研究Ⅲ・Ⅳ」（例：「社会福祉学研究Ⅲ・Ⅳ」など）を履修すること。 選択科目として講義科目を履修する場合は、「○○○研究Ⅰ・Ⅱ」（例：「社会福祉学研究Ⅰ・Ⅱ」など）を履修すること。 ⑸ 各科目は「Ⅰ・Ⅱ」を合わせて履修すること。（選択科目は除く） ⑹ 同一科目は重複して履修することはできない。 ⑺ 履修に関しては主研究指導教員の指導を受けること。
指導教員の選定	⑴ １年次においては、主研究指導教員と副研究指導教員を選定し、「研究指導教員選定・研究題目届」を所定の期間内に教務課へ提出する。 ⑵ ２年次において研究指導教員に変更があった場合は、教務課へ申し出の上、所定の期間内に変更手続きをすること。 提出期間：４月２日（水）～４月30日（水） ⑶ 主研究指導教員と副研究指導教員は石田 晋司・上續 宏道・笠原 幸子・久保 正二・鈴木 浩太・田原 範子・丸岡 稔典の７名から選定すること。
年次研究の計画書（１年次生）	１年次生は年度初めに「研究計画書」を、所定の表紙に主研究指導教員と副研究指導教員の名前を記入し、主研究指導教員に提出する。 提出期間：５月21日（水）～５月28日（水）
外国語試験	年２回外国語試験を実施する。この試験に合格していない者は、修士論文を提出することができない。なお、不合格者は何回でも受験することができる。 試験実施日：別添案内します。

	なお、専門研究科目「社会福祉学文献研究Ⅰ・Ⅱ(外書)」の単位修得をもって、外国語試験合格に替えることができる。
前期課程の修了要件	博士前期課程に2年以上在学し、所定の科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文または特定の課題についての研究成果を提出し、その審査及び最終(口述)試験に合格しなければならない。 口述試験：1月26日(月)～1月30日(金)
修士論文の執筆（修了年次生）	⑴ 修士論文の作成に当たっては、研究指導教員の指導を受けて、その同意のもとに、研究の内容・方法・参考文献などの大綱を記述した修士論文研究計画書を作成しなければならない。 ⑵ 研究計画書は、課程修了の予定年次の定められた期日までに、「修士論文題目届」及び「修士論文研究計画書」を、所定の表紙に主・副研究指導教員の名前を記入し、主研究指導教員に提出する。 ⑶ 研究指導教員は、研究計画書等により、論文作成の指導又は助言を行うものとする。 ⑷ 論文題目は、主研究指導教員が必要と認めるときは、その変更が認められる。論文題目を変更しようとする者は、所定の期間に教務課へ提出しなければならない。 提出期間：修士論文題目届 ｝ 5月21日(水)～5月28日(水) 修士論文研究計画書 ｝ 修士論文題目変更届　10月14日(火)～10月17日(金)
中間発表会での発表	修士論文提出予定者(修了年次生)は、中間発表会(9月または10月)において、研究報告を原則としておこなうこと。
修士論文の提出（修了年次生）	「修士論文」及び「要旨」等は以下のとおり、所定の期間に教務課へ提出する。 ⑴ 所定の表紙をつけ、ファイルに綴じること。その場合、主研究指導教員と副研究指導教員の署名・押印を必要とする。 ⑵ 提出物 ①修士論文　正副1部ずつとし、副はコピーで可 ②要旨　1部 ③修士論文提出証(受領証) ④製本用データファイル(CD-ROM) ⑶ 修士論文の体裁 用紙と文字数　A4サイズ 40,000字以上 文字サイズ　12ポイント　一行34文字×30行 余白　上35mm. 下30mm. 左右30mm. 頁番号　下中央

	図表　　番号をつけ、当該頁に挿入のこと。 本文　　本文の構成は自由であるが、目次を最初に掲載すること。 ⑷ 修士論文要旨の体裁 修士論文の目次を最初に掲載すること。 用紙と文字数　　A4サイズ8,000字程度 以下、修士論文と同様。 提出期間：１月５日（月）～１月10日（土）
修士論文の審査基準	修士論文の審査基準は以下のとおりとする。 ⑴ 研究課題、目的及びその意義が明示されている。 ⑵ 科学的研究手法に則って、研究が実施されている。 ⑶ 四天王寺大学倫理審査委員会の承認を原則として経て、研究が実施されている。（人を対象とした研究の場合） ⑷ 研究実施の過程と研究成果が明示されている。 ⑸ 学術論文体系に則って記述されている。 ⑹ 申請者の新たな知見を加え、そこに創造性が認められる。
特定の課題	社会人学生は、「特定の課題」についての研究成果の審査をもって、修士論文の審査に替えることができる。「特定の課題」についての研究成果の審査を受けようとする者は、研究科長ならびに主研究指導教員と相談すること。
修士論文発表会での発表	修士論文提出者（修了年次生）は、修士論文発表会（２月）において、修士論文の内容を原則として発表すること。

３　博士後期課程の科目と履修

履修科目	⑴ 授業科目群は、特殊研究科目、特殊演習科目及び特殊講義科目によって構成される。 ⑵ 特殊演習科目の内、主研究指導教員の担当する科目を３年間にわたって12単位履修しなければならない。 ⑶ 特殊研究科目・特殊講義科目については、研究テーマに応じて履修することができる。
指導教員の選定	⑴ １年次においては、主研究指導教員と副研究指導教員を選定し､｢研究指導教員選定届｣を所定の期間内に教務課へ提出する。 ⑵ ２年次以降に研究指導教員の変更があった場合は、教務課へ申し出の上、所定の期間内に変更手続きをすること。 提出期間 ：４月２日（水）～４月30日（水） ⑶ 主研究指導教員は笠原 幸子・久保 正二・鈴木 浩太・田原 範子・丸岡 稔典の５名から選定すること。 副研究指導教員は笠原 幸子・久保 正二・鈴木 浩太・田原 範子・丸岡 稔典・上續 宏道の６名から選定すること。
研究計画書と研究報告書の提出	博士後期課程在学生及び研究生は、定められた期間に「研究計画書」と「研究経過報告書」を提出しなければならない。 「研究計画書」は、所定の表紙をつけて10,000字以内で研究課題及び具体的な研究計画内容を記述し、表紙には論題名、主研究指導教員と副研究指導教員の名前を記入し、主研究指導教員に提出すること。 提出期間：年次研究計画書　５月21日（水）～５月28日（水） 年次研究経過報告書　２月２日（月）～２月６日（金）
中間発表会での発表	博士後期課程生及び研究生は、中間発表会（９月または10月）において、研究報告を原則としておこなうこと。
外国語試験	年２回外国語試験を実施する。この試験に合格していない者は、博士論文を提出することができない。なお、不合格者は何回でも受験することができる。 受験資格は、博士後期課程在学生及び研究生とする。 試験日については別途指示する。 ※博士前期課程の社会福祉学文献研究Ⅰ・Ⅱ（外書）の単位修得者、または外国語試験合格者は、博士後期課程の外国語試験合格とみなす。 ※他大学大学院または他分野からの博士後期課程入学生については、院生の研究テーマにあわせた外国語試験を主研究指導教員と副研究指導教員が出題し試験を実施する。

学位審査の資格要件	学位審査申請には、次の各号のすべての要件を満たしていなければならない。 ⑴ 研究科博士後期課程の３年次以上に在学し、学位申請日の属する年度末までの通算在学期間が原則６年以内であること。ただし、単位取得後退学者については､最初に博士後期課程に入学した日から原則６年以内に申請すること。 ⑵ 学位審査申請について主研究指導教員と副研究指導教員の２人以上の承諾を得ていること。 ⑶ 外国語試験に合格していること。 ⑷ 本研究科への入学時から学位審査申請までの間に、所属専攻で行う研究に関連した研究業績が単著論文３篇以上あること。研究業績とは、学術誌専門誌（レフリー制の論文であるほうが望ましい）またはそれに準ずる学術誌に投稿し掲載された論文（掲載予定を含む。ただし、学術専門誌等の出版社・編集者が発行する掲載予定証明書の提出が必要）をいう。 ⑸ 所属する学会での研究発表を単独またはファーストオーサーとして１回以上行うこと。 ⑹ 博士後期課程生及び研究生として、中間発表会で研究報告を毎年おこなっていること。 ⑺ 博士後期課程生及び研究生として、毎年度ごとに研究計画書及び研究経過報告書を提出していること。 〈以上の要件については主研究指導教員に確認すること〉
学位審査手続	⑴ 博士の学位審査は、次に掲げる書類の提出によって行う。 ① 学位審査申請書　１部 ② 博士学位論文　３部（正本１部、副本審査委員の人数分） ③ 博士学位論文要旨　３部（正本１部、副本審査委員の人数分） ④ 研究業績一覧及びその概要　３部（正本１部、副本審査委員の人数分） ※主論文共著者全員の承諾書（自筆〈写し不可〉）１部 ⑤ 履歴書　３部（正本１部、副本審査委員の人数分） ⑥ 審査手数料（本学大学院修了見込者は不要） 〈提出部数については主研究指導教員に確認すること〉 ⑵ 博士論文の体裁 用紙と文字数　A4サイズ　100,000字以上 文字サイズ　12ポイント　一行34文字×30行 余白　上35mm.　下30mm.　左右30mm. 頁番号　下中央 図表　一つひとつに番号をつけ、当該頁に挿入のこと。 本文　本文の構成は自由であるが、目次を最初に掲載すること。 ⑶ 博士論文要旨の体裁 博士論文の目次を最初に掲載すること。

	用紙と文字数　　A4サイズ　　8,000字程度 以下、博士論文と同様。 学位審査申請提出締切日：12月５日（金）
論文題目変更	博士論文の題目変更は、所定の期間に教務課へ提出する。指導教員の署名・押印を必要とする。 変更期間　　10月14日（火）～10月17日（金）
博士学位論文の審査基準	博士学位論文の審査基準は以下のとおりとする。 ⑴ 人間福祉学における博士としての十分な知識と研究能力を有し、人間福祉学の発展に貢献できる。 ⑵ 四天王寺大学倫理審査委員会の承認を原則として経て、研究が実施されている（人を対象とした研究の場合）。 ⑶ 研究の背景･意義について､先行研究の検討に基づいて明確に記述されている。 ⑷ 先行研究や資料が適切に取り扱われており、当該研究分野における研究の水準に達している。 ⑸ 当該研究領域の博士論文として、独自の研究結果に基づき一貫した論旨で構成されている。 ⑹ 当該研究領域の理論的見地または実証的見地からみて、新規性、創造性、重要性、有用性が認められる。 ⑺ 論文審査委員会においての発表や質疑応答の内容が適切である。
学位審査	博士論文の審査（公開）を行い、学位授与の可否について審査する。
後期課程の修了要件	所定の科目について12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終（口述）試験に合格しなければならない。
単位取得後退学	３年以上在学し、その間正規の研究指導を受け、所定の科目について必要な単位（必修12単位以上）を修得し、かつ「年次研究経過報告書」を提出して、認定を受けた場合、退学願を提出することができる。
課程修了以外の論文審査	博士学位論文については、博士後期課程修了によるもののほかに、論文審査とそれに伴う試験・試問によるものがある。

【博士前期課程】

	教育研究領域		
	基礎理論分野	政策・制度分野	援助技術分野
専門講義科目（特論）	社会福祉学原論※ 社会保障論※ 社会事業史研究※	老人福祉論※ 人権問題論※ 福祉教育研究 地域共生研究 成年後見制度論※ 障害学研究	社会福祉援助論※ 社会福祉援助技術論※ 社会福祉専門性研究 精神保健福祉研究 生命科学研究 発達科学研究
専門演習科目	社会保障論※	人権問題論※ 福祉教育研究 地域共生研究 障害学研究	社会福祉援助技術論※ 社会福祉専門性研究 精神保健福祉研究 生命科学研究 発達科学研究
専門研究科目	人間福祉学英語研究	社会福祉調査法研究 社会福祉学文献研究（和書） 社会福祉学文献研究（外書）	

※　2025年度は不開講

1　専門講義科目（特論）と専門演習科目

専門講義科目（特論）とリンクする専門演習科目では大学院生の個々の研究テーマに基づき、次の３分野に十分な配慮をもって研究指導する。

① 基礎理論分野においては、社会福祉の社会的・歴史的意義と役割

② 政策・制度分野においては、社会福祉の制度・政策的側面の研究、国際的な社会福祉政策の比較研究、地域医療・保健・福祉組織化論の展開

③ 援助技術分野においては、社会福祉の理論や実践的技術

2　専門研究科目

個々の院生の研究課題である内外の文献・事件（判例）・調査方法等についての講義と併せて、大学院生の発表・討論も含めた形で授業を展開する。

【博士前期課程研究の流れ】

入　学

1年次

研究テーマにより主研究指導教員・副研究指導教員の決定

科 目 履 修

研究テーマ科目
関連選択科目
フィールドワーク

主研究指導教員による個別履修指導・研究計画書の提出

2年次

主研究指導教員による修士論文指導・研究計画書（学位請求論文計画書）提出

科 目 履 修

研究テーマ科目
関連選択科目
フィールドワーク

1～2年次 外国語試験（6月上旬、11月中旬）のいずれかに合格する
（社会福祉学文献研究2（外書）の単位を修得でも可）

論文中間発表会

修士論文提出（1月上旬）
口述試験（1月下旬～2月上旬）

修　了

《社会福祉施設専門職を希望するケース》

例

【主研究指導教員・副研究指導教員の決定】

〔研究テーマ科目〕

精神保健福祉研究（社会福祉援助技術研究Ⅰ・Ⅱ）
精神保健福祉研究（社会福祉援助技術研究Ⅲ・Ⅳ）

〔関連選択科目〕

社会福祉専門性研究（社会福祉援助技術研究Ⅲ・Ⅳ）
社会福祉専門性研究（社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ）

主研究指導教員・・・石田 晋司
副研究指導教員・・・笠原 幸子

【研究計画書】

院生各自が、主として研究するテーマに対し研究計画を立てる。主研究指導教員から、その研究テーマの選択・決定及び研究計画について、研究の目的・研究内容等、具体的な指導を受ける。

【履修内容＆履修年次】

（研究テーマ科目）

援助技術分野

社会福祉援助技術論（社会福祉援助技術研究Ⅰ・Ⅱ）…1年次
社会福祉援助技術論（社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ）…1・2年次

（関連選択科目）

援助技術分野

社会福祉専門性研究（社会福祉援助技術研究Ⅲ・Ⅳ）…1～2年次
社会福祉専門性研究（社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ）…1～2年次

政策・制度分野

地域共生研究（社会福祉政策・制度研究Ⅰ・Ⅱ）…1～2年次
人権問題論（社会福祉政策・制度研究Ⅲ・Ⅳ）…1～2年次

その他

社会福祉調査法研究Ⅰ・Ⅱ……1～2年次

【博士後期課程】

	教育研究領域		
	基礎理論分野	政策・制度分野	援助技術分野
特殊研究科目	社会福祉学原論※ 社会保障論※ 社会事業史研究※	老人福祉論※ 人権問題論※ 福祉教育研究 地域共生研究 障害学研究	社会福祉援助論※ 社会福祉援助技術論※ 社会福祉専門性研究 生命科学研究 発達科学研究
特殊演習科目	社会保障論※	地域共生研究 障害学研究	社会福祉援助技術論※ 社会福祉専門性研究 生命科学研究 発達科学研究
特殊講義科目	社会福祉学文献特殊研究		

※　2025年度は不開講

特殊研究科目と特殊演習科目

特殊研究科目とリンクする特殊演習科目では大学院生の個々の研究テーマに基づき、次の３点に十分な配慮をもって研究指導する。

① 基礎理論分野においては、社会福祉の社会的・歴史的意義と役割

② 政策・制度分野においては、社会福祉の制度・政策的側面の研究、国際的な社会福祉政策の比較研究、地域医療・保健・福祉組織化論の展開

③ 援助技術分野においては、社会福祉の理論や実践的技術

四天王寺大学及び四天王寺大学短期大学部の科目履修について

1．四天王寺大学（以下「大学」という。）と四天王寺大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）で開講されている科目の履修を希望する場合は、大学及び短期大学部において、その授業を履修すべき学生の学修に支障のない場合に限り、科目担当者の許可を得て科目等履修生として履修登録をし、受講することができます。
※教育学部、看護学部及び短期大学部保育科の開講科目は履修できません。
2．単位を修得するには、学期の始めに大学院科目とは別に履修登録をしなければなりません。
提出期限内に履修登録願を教務課に提出してください。
3．履修登録を行わなかった場合や提出期限に遅れた場合は、その学期の授業科目の履修は一切認められません。
なお、単位の修得はできませんが、科目担当教員の承諾を得れば聴講することはできます。
4．科目等履修登録料及び科目等履修料は免除します。
ただし、その科目の履修に際して必要な教材費など、授業料以外に別途徴収される費用がある場合は、これを支払わなければなりません。
5．履修及び提出期間等についての質問は事前に教務課まで問い合わせてください。

履修登録願の記入及び提出について

履修登録願に記入

（注意）履修登録願は教務課に設置
時間割に変更がないか、教務課で確認

↓

履修登録願を教務課に提出

夏学期提出期間	４月１日(火)～４月８日(火)
冬学期提出期間	９月17日(水)～９月22日(月)

注意 ⑴ 履修登録期間中に履修登録願を提出しなかった場合は、その授業科目の履修ができなくなります。したがって、試験等の受験資格は認められず、単位も認定されません。
⑵ 履修登録の変更は認められません。
⑶ 成績表は大学院のものとは別に発行されますので注意してください。
⑷ 大学及び短期大学部で開講されている科目の履修を希望する場合は、履修登録願と一緒に「大学・短大・大学院科目等履修生願」を提出して下さい。

研究室について

人文社会学研究科院生研究室　（6A-B102）
人文社会学研究科院生資料室　（6A-B108）

人文社会学研究科の院生専用の研究室と資料室があります。
・机、ロッカー等がありますのでご利用ください。研究室への入室は暗証番号が必要となります。
・廊下にコピー機を設置しております。ご利用の際には暗証番号が必要となります。
※各暗証番号につきましては、教務課までお問い合わせください。
・研究室内のプリンター及び廊下のコピー機について、用紙補充やトナー交換が必要となった場合、教務課で必要なものを受け取り、各自で補充・交換等の対応をお願いします。

4　授業科目一覧

【博士前期課程】

	授業科目		単位数	担当者	身につけるべき能力			ナンバリングコード	履修方法
					①	②	③		
専門講義科目	社会福祉学研究Ⅰ	社会保障論	2	※	○	◎	○	GHAA1001a0	専門演習において、主指導教員が担当する科目8単位と、副指導教員が担当する演習4単位、社会福祉学研究、社会福祉政策・制度研究、及び社会福祉援助技術研究の専門講義科目うち8単位を含め、計30単位以上（専門研究科目も含む）を履修しなければならない。
	社会福祉学研究ⅠA	社会事業史研究	2	※				GHAA1002a0	
	社会福祉学研究ⅠB	社会福祉学原論	2	※				GHAA1003a0	
	社会福祉学研究Ⅱ	社会保障論	2	※	○	◎	○	GHAA2004a0	
	社会福祉学研究ⅡA	社会事業史研究	2	※				GHAA2005a0	
	社会福祉学研究ⅡB	社会福祉学原論	2	※				GHAA2006a0	
	社会福祉学研究Ⅲ	社会保障論	2	※	○	◎	○	GHAA1007a0	
	社会福祉学研究Ⅳ	社会保障論	2	※	○	◎	○	GHAA2008a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅰ	地域共生研究	2	田原　範子	○	◎	○	GHAA1009a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅰ	人権問題論	2	※	○	◎		GHAA1010a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅰ	福祉教育研究	2	上續　宏道	○	◎	○	GHAA1011a0	
	社会福祉政策･制度研究ⅠA	老人福祉論	2	※				GHAA1012a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅰ	成年後見制度論	2	※	○	◎	○	GHAA1013a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅰ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	◎	○	GHAA1089a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅱ	地域共生研究	2	田原　範子	○	◎	○	GHAA2014a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅱ	人権問題論	2	※	○	◎		GHAA2015a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅱ	福祉教育研究	2	上續　宏道	○	◎	○	GHAA2016a0	
	社会福祉政策･制度研究ⅡA	老人福祉論	2	※				GHAA2017a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅱ	成年後見制度論	2	※	○	◎	○	GHAA2018a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅱ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	◎	○	GHAA1090a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅲ	地域共生研究	2	田原　範子	○	◎	○	GHAA1019a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅲ	人権問題論	2	※	○	◎		GHAA1020a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅲ	福祉教育研究	2	上續　宏道	○	◎	○	GHAA1021a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅲ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	◎	○	GHAA2091a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅳ	地域共生研究	2	田原　範子	○	◎	○	GHAA2022a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅳ	人権問題論	2	※	○	◎		GHAA2023a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅳ	福祉教育研究	2	上續　宏道	○	◎	○	GHAA2024a0	
	社会福祉政策･制度研究Ⅳ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	◎	○	GHAA2092a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅰ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	○	◎	○	GHAA1025a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅰ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	◎	○	GHAA1026a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅰ	生命科学研究	2	久保　正二	○	◎	○	GHAA1093a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅰ	社会福祉援助技術論	2	※	○	◎	○	GHAA1027a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅰ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAA2109a0	
	社会福祉援助技術研究ⅠA	社会福祉援助論	2	※				GHAA1028a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅱ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	○	◎	○	GHAA2029a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅱ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	◎	○	GHAA2030a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅱ	生命科学研究	2	久保　正二	○	◎	○	GHAA1094a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅱ	社会福祉援助技術論	2	※	○	◎	○	GHAA2031a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅱ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAA2110a0	
	社会福祉援助技術研究ⅡA	社会福祉援助論	2	※				GHAA2032a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅲ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	○	◎	○	GHAA1033a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅲ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	◎	○	GHAA1034a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅲ	生命科学研究	2	久保　正二	○	◎	○	GHAA1095a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅲ	社会福祉援助技術論	2	※	○	◎	○	GHAA1035a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅲ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAA2111a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅳ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	○	◎	○	GHAA2036a0	

	授業科目		単位数	担当者	身につけるべき能力			ナンバリングコード	履修方法
					①	②	③		
専門講義科目	社会福祉援助技術研究Ⅳ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	◎	○	GHAA2037a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅳ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAA2096a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅳ	社会福祉援助技術論	2	※	○	◎	○	GHAA2038a0	
	社会福祉援助技術研究Ⅳ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAA2112a0	
専門演習科目	社会福祉専門演習Ⅰ	社会保障論	2	※	◎	○		GHAB1039a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	地域共生研究	2	田原　範子	◎	○		GHAB1040a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	人権問題論	2	※	◎	○		GHAB1041a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	福祉教育研究	2	上續　宏道	◎	○		GHAB1042a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	◎	○		GHAB1043a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	◎	○		GHAB1044a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAB2097a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	社会福祉援助技術論	2	※	◎	○		GHAB1045a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	障害学研究	2	丸岡　稔典	◎	○		GHAB1098a0	
	社会福祉専門演習Ⅰ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAB2113a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	社会保障論	2	※	◎	○		GHAB2046a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	地域共生研究	2	田原　範子	◎	○		GHAB2047a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	人権問題論	2	※	◎	○		GHAB2048a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	福祉教育研究	2	上續　宏道	◎	○		GHAB2049a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	◎	○		GHAB2050a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	◎	○		GHAB2051a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAB2099a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	社会福祉援助技術論	2	※	◎	○		GHAB2052a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	障害学研究	2	丸岡　稔典	◎	○		GHAB1100a0	
	社会福祉専門演習Ⅱ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAB1114a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	◎	○		GHAB3053a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	◎	○		GHAB3054a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAB2101a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	社会福祉援助技術論	2	※	◎	○		GHAB3055a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	地域共生研究	2	田原　範子	◎	○		GHAB3056a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	人権問題論	2	※	◎	○		GHAB3057a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	社会保障論	2	※	◎	○		GHAB3058a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	福祉教育研究	2	上續　宏道	◎	○		GHAB3059a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	障害学研究	2	丸岡　稔典	◎	○		GHAB2102a0	
	社会福祉専門演習Ⅲ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAB2115a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	◎	○		GHAB3060a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	◎	○		GHAB3061a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAB2103a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	社会福祉援助技術論	2	※	◎	○		GHAB3062a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	地域共生研究	2	田原　範子	◎	○		GHAB3063a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	人権問題論	2	※	◎	○		GHAB3064a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	社会保障論	2	※	◎	○		GHAB3065a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	福祉教育研究	2	上續　宏道	◎	○		GHAB3066a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	障害学研究	2	丸岡　稔典	◎	○		GHAB2104a0	
	社会福祉専門演習Ⅳ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAB2116a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	◎	○		GHAB1067a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	◎	○		GHAB1068a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAB2105a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	社会福祉援助技術論	2	※	◎	○		GHAB1069a0	

	授業科目		単位数	担当者	身につけるべき能力			ナンバリングコード	履修方法
					①	②	③		
専門演習科目	社会福祉専門演習Ⅴ	地域共生研究	2	田原　範子	◎	○		GHAB1070a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	人権問題論	2	※	◎	○		GHAB1071a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	社会保障論	2	※	◎	○		GHAB1072a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	福祉教育研究	2	上續　宏道	◎	○		GHAB1073a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	障害学研究	2	丸岡　稔典	◎	○		GHAB1106a0	
	社会福祉専門演習Ⅴ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAB2107a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	精神保健福祉研究	2	石田　晋司	◎	○		GHAB2074a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	◎	○		GHAB2075a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	生命科学研究	2	久保　正二	◎	○		GHAB2107a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	社会福祉援助技術論	2	※	◎	○		GHAB2076a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	地域共生研究	2	田原　範子	◎	○		GHAB2077a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	人権問題論	2	※	◎	○		GHAB2078a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	社会保障論	2	※	◎	○		GHAB2079a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	福祉教育研究	2	上續　宏道	◎	○		GHAB2080a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	障害学研究	2	丸岡　稔典	◎	○		GHAB1108a0	
	社会福祉専門演習Ⅵ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	◎	○		GHAB2117a0	
専門研究科目	社会福祉学文献研究Ⅰ(和書)		2	鳥海　直美	◎	○		GHAC1081a0	
	社会福祉学文献研究Ⅰ(外書)		2	笠原　幸子	◎	○		GHAC1082c0	
	社会福祉学文献研究Ⅱ(和書)		2	鳥海　直美	◎	○		GHAC2083a0	
	社会福祉学文献研究Ⅱ(外書)		2	笠原　幸子	◎	○		GHAC2084c0	
	社会福祉調査法研究Ⅰ		2	丸岡　稔典	◎	○		GHAC1085a0	
	社会福祉調査法研究Ⅱ		2	丸岡　稔典	◎	○		GHAC1086a0	
	社会福祉学英語研究Ⅰ	人間福祉学英語研究	2	石田・上續・笠原・久保・鈴木・田原・鳥海・丸岡	◎	○		GHAC1087b0	
	社会福祉学英語研究Ⅱ	人間福祉学英語研究	2	石田・上續・笠原・久保・鈴木・田原・鳥海・丸岡	◎	○		GHAC2088b0	

＊「身につけるべき能力」については、P.4 ディプロマ・ポリシーを確認してください。
＊「ナンバリングコード」については、P.24を確認してください。

【博士後期課程】

	授業科目		単位数	担当者	身につけるべき能力			ナンバリングコード	履修方法
					①	②	③		
特殊研究科目	社会福祉学特殊研究Ⅰ	社会保障論	2	※	○	◎	○	GHBA1001a0	主指導教員が担当する社会福祉学特殊演習において、計12単位を修得する。
	社会福祉学特殊研究ⅠA	社会福祉学原論	2	※				GHBA1002a0	
	社会福祉学特殊研究Ⅱ	社会保障論	2	※	○	◎	○	GHBA2003a0	
	社会福祉学特殊研究ⅡA	社会福祉学原論	2	※				GHBA2004a0	
	社会福祉学特殊研究Ⅲ	—	2	※				GHBA1005a0	
	社会福祉学特殊研究ⅢA	社会事業史研究	2	※				GHBA1006a0	
	社会福祉学特殊研究Ⅳ	—	2	※				GHBA2007a0	
	社会福祉学特殊研究ⅣA	社会事業史研究	2	※				GHBA2008a0	
	社会福祉学特殊研究Ⅴ	—	2	※				GHBA1009a0	
	社会福祉学特殊研究Ⅵ	—	2	※				GHBA2010a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅰ	福祉教育研究	2	上續　宏道	○	◎	○	GHBA1011a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究ⅠA	老人福祉論	2	※				GHBA1012a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅱ	福祉教育研究	2	上續　宏道	○	◎	○	GHBA2013a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究ⅡA	老人福祉論	2	※				GHBA2014a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅲ	人権問題論	2	※	○	◎	○	GHBA1015a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅲ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	◎	○	GHBA3059a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅳ	人権問題論	2	※	○	◎	○	GHBA2016a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅳ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	◎	○	GHBA3060a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅴ	地域共生研究	2	田原　範子	○	◎	○	GHBA1017a0	
	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅵ	地域共生研究	2	田原　範子	○	◎	○	GHBA2018a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅰ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	◎	○	GHBA1019a0	
	社会福祉援助技術特殊研究ⅠA	社会福祉援助論	2	※				GHBA1020a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅱ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	◎	○	GHBA2021a0	
	社会福祉援助技術特殊研究ⅡA	社会福祉援助論	2	※				GHBA2022a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅲ	生命科学研究	2	久保　正二	○	◎	○	GHBA2023a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅳ	生命科学研究	2	久保　正二	○	◎	○	GHBA2024a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅴ	社会福祉援助技術論	2	※	○	◎	○	GHBA1025a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅴ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBA3078a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅵ	社会福祉援助技術論	2	※	○	◎	○	GHBA2026a0	
	社会福祉援助技術特殊研究Ⅵ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBA3079a0	
特殊演習科目	社会福祉学特殊演習Ⅰ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBB1027a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅰ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBB1028a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅰ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBB1029a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅰ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBB1030a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅰ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBB2061a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅰ	生命科学研究	2	久保　正二	○	◎	○	GHBB2080a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅰ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3063a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBB1031a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBB1032a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBB1033a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBB1034a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBB3063a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBB3081a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅱ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3065a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅲ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBB2035a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅲ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBB2036a0	

	授業科目		単位数	担当者	身につけるべき能力			ナンバリングコード	履修方法
					①	②	③		
特殊演習科目	社会福祉学特殊演習Ⅲ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBB2037a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅲ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBB2038a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅲ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBB3065a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅲ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBB3066a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅲ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3082a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBB2039a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBB2040a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBB2041a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBB2042a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBB3067a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBB3068a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅳ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3069a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBB3043a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBB3044a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBB3045a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBB3046a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBB3069a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBB3070a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅴ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3083a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBB3047a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBB3048a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBB3049a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBB3050a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBB3071a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBB3072a0	
	社会福祉学特殊演習Ⅵ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3084a0	
特殊講義科目	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBC1051a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBC1052a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBC1053a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBC1054a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBC2073a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBC3074a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅰ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3085a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	社会保障論	2	※	○	○	◎	GHBC2055a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	地域共生研究	2	田原　範子	○	○	◎	GHBC2056a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	社会福祉専門性研究	2	笠原　幸子	○	○	◎	GHBC2057a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	社会福祉援助技術論	2	※	○	○	◎	GHBC2058a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	障害学研究	2	丸岡　稔典	○	○	◎	GHBC3075a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	生命科学研究	2	久保　正二	○	○	◎	GHBC3076a0	
	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ	発達科学研究	2	鈴木　浩太	○	◎	○	GHBB3086a0	

＊「身につけるべき能力」については、P.4 ディプロマ・ポリシーを確認してください。
＊「ナンバリングコード」については、P.24を確認してください。

5　ナンバリングについて

ナンバリングとは、区分や水準等をもとに授業科目に番号を付けることで、カリキュラム全体の中での各授業科目の学修の段階や順序を表すものです。履修登録や学修の上での参考にしてください。

[ナンバリングコードの表示と見方]

10 桁のアルファベット・数字で表します。

G	H	AA	1	001	a	0
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

①第 1 区分コード　……　大学院に関する科目で区分

②第 2 区分コード　……　研究科・専攻で区分

③第 3 区分コード　……　課程・コース・分野・領域で区分

※①～③の詳細は、以下の「区分コード表」を確認してください。

④水準コード　……　1：初級レベル［入門・導入的な内容の科目］
……　2：中級レベル［発展的・応用的な内容の科目］
……　3：上級レベル［総合的かつ高度な内容の科目］

⑤科目コード　……　原則、学則に規定された科目の順序

⑥授業での使用言語　……　a：日本語 b：英語 c：日本語及び英語 d：その他

⑦科目区分コード　……　0：専門　1：共通

区分コード表

①第 1 区分コード		②第 2 区分コード		③第 3 区分コード	
	コード	研究科・専攻	コード	課程・コース・分野・領域	コード
大学院 Graduate School	G	人文社会学研究科 人間福祉学専攻 Department of Human Welfare, School of Humanities and Social Sciences	H	博士前期課程　専門講義科目	AA
				博士前期課程　専門演習科目	AB
				博士前期課程　専門研究科目	AC
				博士後期課程　特殊研究科目	BA
				博士後期課程　特殊演習科目	BB
				博士後期課程　特殊講義科目	BC

6　履修系統図

履修系統図とは、ディプロマ・ポリシーで示されている「修了時点において学生が身につけるべき能力」を修得するために科目がどのように配置されているのか、つまり、各科目の関連性やつながりを体系的に明示したものです。

6-1 人文社会学研究科人間福祉学専攻　博士前期課程

	身につけるべき能力	分野	1年次	
①	基本的・体系的な研究能力を修得している。 仏教精神に基づいた自立と共生についての理解を深め、基本的・体系的な研究能力を修得している。	基礎理論分野	＜専門演習科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉専門演習Ⅰ（社会保障論）	社会福祉専門演習Ⅱ（社会保障論）
			＜専門演習科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉専門演習Ⅴ（社会保障論）	社会福祉専門演習Ⅵ（社会保障論）
		政策・制度分野	＜専門演習科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉専門演習Ⅰ（地域共生研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（地域共生研究）
			社会福祉専門演習Ⅰ（人権問題論）	社会福祉専門演習Ⅱ（人権問題論）
			社会福祉専門演習Ⅰ（福祉教育研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（福祉教育研究）
			社会福祉専門演習Ⅰ（障害学研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（障害学研究）
			＜専門演習科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉専門演習Ⅴ（地域共生研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（地域共生研究）
			社会福祉専門演習Ⅴ（人権問題論）	社会福祉専門演習Ⅵ（人権問題論）
			社会福祉専門演習Ⅴ（福祉教育研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（福祉教育研究）
			社会福祉専門演習Ⅴ（障害学研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（障害学研究）
		援助技術分野	＜専門演習科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉専門演習Ⅰ（精神保健福祉研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（精神保健福祉研究）
			社会福祉専門演習Ⅰ（生命科学研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（生命科学研究）
			社会福祉専門演習Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉専門演習Ⅰ（社会福祉援助技術論）	社会福祉専門演習Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉専門演習Ⅰ（発達科学研究）	社会福祉専門演習Ⅱ（発達科学研究）
			＜専門演習科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉専門演習Ⅴ（精神保健福祉研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（精神保健福祉研究）
			社会福祉専門演習Ⅴ（生命科学研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（生命科学研究）
			社会福祉専門演習Ⅴ（社会福祉専門性研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉専門演習Ⅴ（社会福祉援助技術倫）	社会福祉専門演習Ⅵ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉専門演習Ⅴ（発達科学研究）	社会福祉専門演習Ⅵ（発達科学研究）
			＜専門研究科目＞	
			社会福祉学文献研究Ⅰ（和書）	社会福祉学文献研究Ⅱ（和書）
			社会福祉学文献研究Ⅰ（外書）	社会福祉学文献研究Ⅱ（外書）
			社会福祉調査法研究Ⅰ	社会福祉調査法研究Ⅱ
			社会福祉学英語研究Ⅰ	社会福祉学英語研究Ⅱ
②	社会福祉に関する高度な専門性を修得している。 社会福祉の各領域・分野における専門知識、問題解決能力、社会福祉実践能力などの高度な専門性を修得している。	基礎理論分野	＜専門講義科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉学研究Ⅰ（社会保障論）	社会福祉学研究Ⅱ（社会保障論）
			＜専門講義科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉学研究Ⅲ（社会保障論）	社会福祉学研究Ⅳ（社会保障論）
		政策・制度分野	＜専門講義科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉政策・制度研究Ⅰ（地域共生研究）	社会福祉政策・制度研究Ⅱ（地域共生研究）
			社会福祉政策・制度研究Ⅰ（人権問題論）	社会福祉政策・制度研究Ⅱ（人権問題論）
			社会福祉政策・制度研究Ⅰ（福祉教育研究）	社会福祉政策・制度研究Ⅱ（福祉教育研究）
			社会福祉政策・制度研究Ⅰ（障害学研究）	社会福祉政策・制度研究Ⅱ（障害学研究）
			＜専門講義科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉政策・制度研究Ⅲ（地域共生研究）	社会福祉政策・制度研究Ⅳ（地域共生研究）
			社会福祉政策・制度研究Ⅲ（人権問題論）	社会福祉政策・制度研究Ⅳ（人権問題論）
			社会福祉政策・制度研究Ⅲ（福祉教育研究）	社会福祉政策・制度研究Ⅳ（福祉教育研究）
			社会福祉政策・制度研究Ⅲ（障害学研究）	社会福祉政策・制度研究Ⅳ（障害学研究）
		援助技術分野	＜専門講義科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（精神保健福祉研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（精神保健福祉研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（生命科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（生命科学研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（社会福祉援助技術論）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（発達科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（発達科学研究）
			＜専門講義科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（精神保健福祉研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（精神保健福祉研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（生命科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（生命科学研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（社会福祉専門性研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（社会福祉援助技術論）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（発達科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（発達科学研究）
③	指導的役割を担う力を修得している。 社会福祉の実践の場において指導的役割を担い、スーパービジョンができる。	援助技術分野	＜専門講義科目（主研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（精神保健福祉研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（精神保健福祉研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（生命科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（生命科学研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（社会福祉援助技術論）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉援助技術研究Ⅰ（発達科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（発達科学研究）
			＜専門講義科目（副研究指導教員担当科目）＞	
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（精神保健福祉研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（精神保健福祉研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（生命科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（生命科学研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（社会福祉専門性研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（社会福祉援助技術論）	社会福祉援助技術研究Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉援助技術研究Ⅲ（発達科学研究）	社会福祉援助技術研究Ⅳ（発達科学研究）

2年次

社会福祉専門演習Ⅲ（社会保障論）
社会福祉専門演習Ⅳ（社会保障論）

社会福祉専門演習Ⅲ（地域共生研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（地域共生研究）
社会福祉専門演習Ⅲ（人権問題論）
社会福祉専門演習Ⅳ（人権問題論）
社会福祉専門演習Ⅲ（福祉教育研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（福祉教育研究）
社会福祉専門演習Ⅲ（障害学研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（障害学研究）

社会福祉専門演習Ⅲ（精神保健福祉研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（精神保健福祉研究）
社会福祉専門演習Ⅲ（生命科学研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（生命科学研究）
社会福祉専門演習Ⅲ（社会福祉専門性研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（社会福祉専門性研究）
社会福祉専門演習Ⅲ（社会福祉援助技術論）
社会福祉専門演習Ⅳ（社会福祉援助技術論）
社会福祉専門演習Ⅲ（発達科学研究）
社会福祉専門演習Ⅳ（発達科学研究）

6-2　人文社会学研究科人間福祉学専攻　博士後期課程

	身につけるべき能力	分野	1年次	
①	精深な学識と高度な研究能力を修得している。 仏教精神に基づいた自立と共生についての理解を深め、広い視野に立つ精深な学識と高度な研究能力を修得している。	基礎理論分野	＜特殊研究科目＞ 社会福祉学特殊演習Ⅰ（社会保障論）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（社会保障論）
		政策・制度分野	社会福祉学特殊演習Ⅰ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（地域共生研究）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（障害学研究）
		援助技術分野	社会福祉学特殊演習Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（生命科学研究）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（発達科学研究）
②	社会福祉に関する高度な専門性と研究を継続していく力を修得している。 社会福祉の各領域・分野における高度な専門性をもち、変化し続ける社会状況における様々な社会福祉問題の研究を継続していく力を修得している。	基礎理論分野	＜特殊研究科目＞ 社会福祉学特殊研究Ⅰ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅱ（社会保障論）
		政策・制度分野	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅰ（福祉教育研究）	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅱ（福祉教育研究）
			社会福祉政策・制度特殊研究Ⅲ（人権問題論）	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅳ（人権問題論）
			社会福祉政策・制度特殊研究Ⅲ（障害学研究）	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅳ（障害学研究）
			社会福祉政策・制度特殊研究Ⅴ（地域共生研究）	社会福祉政策・制度特殊研究Ⅵ（地域共生研究）
		援助技術分野	社会福祉援助技術特殊研究Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉援助技術特殊研究Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉援助技術特殊研究Ⅲ（生命科学研究）	社会福祉援助技術特殊研究Ⅳ（生命科学研究）
			社会福祉援助技術特殊研究Ⅴ（社会福祉援助技術論）	社会福祉援助技術特殊研究Ⅵ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉援助技術特殊研究Ⅴ（発達科学研究）	社会福祉援助技術特殊研究Ⅵ（発達科学研究）
③	明確な研究テーマと新たな知見を生み出す力を修得している。 明確な研究テーマを持ち続けることにより、先見的かつ実証的な社会福祉に関する新たな知見を継続して生み出していく力を修得している。	基礎理論分野	＜特殊演習科目＞ 社会福祉学特殊演習Ⅰ（社会保障論）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（社会保障論）
			＜特殊講義科目＞ 社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（社会保障論）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（社会保障論）
		政策・制度分野	＜特殊演習科目＞ 社会福祉学特殊演習Ⅰ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（地域共生研究）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（障害学研究）
			＜特殊講義科目＞ 社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（地域共生研究）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（地域共生研究）
			社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（障害学研究）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（障害学研究）
		援助技術分野	＜特殊演習科目＞ 社会福祉学特殊演習Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（生命科学研究）
			社会福祉学特殊演習Ⅰ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅱ（発達科学研究）
			＜特殊講義科目＞ 社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（社会福祉専門性研究）
			社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（社会福祉援助技術論）
			社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（生命科学研究）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（生命科学研究）
			社会福祉学文献特殊研究Ⅰ（発達科学研究）	社会福祉学文献特殊研究Ⅱ（発達科学研究）

※カリキュラムポリシー（CP）はP.4～5を参照してください。

2年次		3年次	
社会福祉学特殊研究Ⅲ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅳ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅴ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅵ（社会保障論）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（地域共生研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（障害学研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（社会福祉専門性研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（社会福祉援助技術論）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（生命科学研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（発達科学研究）

社会福祉学特殊研究Ⅲ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅳ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅴ（社会保障論）	社会福祉学特殊研究Ⅵ（社会保障論）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（地域共生研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（地域共生研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（障害学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（障害学研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（社会福祉専門性研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（社会福祉専門性研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（社会福祉援助技術論）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（社会福祉援助技術論）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（生命科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（生命科学研究）
社会福祉学特殊演習Ⅲ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅳ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅴ（発達科学研究）	社会福祉学特殊演習Ⅵ（発達科学研究）

看護学研究科

看護学専攻

Ⅰ　看護学専攻の概要

Ⅰ　看護学専攻の概要

本学の教育方針

教育（専攻）の目的

人間と命に対する畏敬の念と高い倫理観に基づき、居宅や医療・保健、福祉機関で提供される看護ケア方略開発に向けて、科学的根拠に基づいた研究ができる力、あるいは高度実践看護師（専門看護師）に求められる実践能力を培うことを目的とする。

「修了認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神である「理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える」に基づいて設置する看護学研究科は、学園訓である「和」の精神を大切にしながら、看護の独自性・専門性を追求しつつ、今後の知識基盤社会において実践・研究・教育の場で活躍できる高度専門職業人・研究者・教育者となる人材を育成する。

博士前期課程

＜共通＞

1）看護実践を科学的・論理的に探求できる。

看護実践に潜む経験知を大切にしながらも、根拠に基づく看護を目指して、看護現象を科学的・論理的に探求できる。

2）高い倫理性を身につけ、看護の質向上に関与できる。

看護職者としての誇りと高い自覚に基づいて、常に理想の看護を探求しながら、人間と命の尊厳を遵守し、絶えず看護実践・研究・教育の質の向上に関与できる。

＜研究者コース＞

1）実践に即した研究課題を明確にし、適切な方法を選択して研究に取り組むことができる。

看護実践の経験の中から自ら解明したい課題を明らかにして、文献検索・検討を通して先行研究の成果を理解したうえで、自らの課題解明のために適切な研究方法を選択して研究に取り組むことができる。

2）看護職の教育的機能を理解し、現任教育や基礎教育に関わることができる。

看護実践における健康教育や患者教育等の看護職の教育的機能を理解し、実践の場における現任教育や看護専門学校や大学教育など基礎教育に関与することができる。

＜専門看護師コース（精神看護学・老年看護学・災害看護学）＞

1）高度な専門知識と技能を有し、基本的な研究力を修得している。

学士課程教育の基盤の上に高度な知識を持ち、生涯を通して学修を継続する力と新たな知識を常に修得する姿勢・態度を有している。また研究活動において、情報を駆使しアイデアを発展させ、応用する創造力を修得している。

2）高度な実践を遂行できる力と協働する力を修得している。

高度で普遍性のある教養を身につけ、知識を統合する能力を有し、自らの知識や理解を適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、また人間と命に対する尊厳についての深い理解のもと、他分野と連携し複雑な課題を解決し高度な実践を遂行できる力を修得している。

3）グローバルな視点をもち、地域に根ざして行動する力を身につけている。

現代社会が直面する医療問題の解決に挑戦するために、多様な文化・制度等を理解し、学際的･国際的に通用する専門知識･技能及び自らの考えをもち、それらを専門家にも一般の人々にも、明確に伝えることができるコミュニケーション力及び行動力を身につけている。

4）地域社会を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。

自らの知識と技能及び問題解決能力を、専門分野において、またより広い学際的な領域において発揮し、地域社会における制度設計や変革を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。

博士後期課程

1）人間と命の尊厳に対する深い理解と看護現象に対する洞察力ならびに自立して研究を遂行できる研究力を修得している。

人間の健康に関わる諸現象を対象とする看護実践は、人間への深い理解と命の尊厳を遵守することを基盤にした長い歴史をもつ営みであり、それを支える看護学は、実践の質を高めるための研究の成果によって成り立っている。これらに関与できる博士後期課程修了者は、看護現象を自立して探求し続けることのできる研究力を修得している。

2）健康問題／課題解決に向けて、グローバルな視点で探求し教育できる力を修得している。

多様化・複雑化している人々の健康問題・課題に対して、学際的なグローバルな視点に立って探求するとともに、人々への健康教育をはじめ現職者や看護学生への教育に関与することのできる教育力を修得している。

3）看護学の発展に寄与するとともに、研究結果を国内外に向けて発信できる力を身につけている。

諸学問の中での看護学は発展途上にあることを理解し、その発展に寄与するとともに、看護学の研究成果を国内のみならず海外に発信し、国際的なコミュニケーションを拡大できる力を身につけている。

「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

博士前期・後期課程のそれぞれの「修了認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）を実現すべく、両課程において共通科目と専門科目から編成されている。また、専門科目においては、共通して基盤看護学分野・生涯発達看護学分野・広域看護学分野の３分野を設けている。

博士前期課程

博士前期課程においては、看護実践の拠りどころとなる研究力とともに教育力を有する研究者を育成する「研究者コース」と、高度実践看護師を養成する「専門看護師コース（精神看護学、老年看護学、災害看護学）」を設け、両コースの基盤的な理論等を学ぶ共通科目とともに、各コースに分野・領域に応じた専門科目を配置して編成する。

そのため、博士前期課程における「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を次のように定める。

＜共通＞

１）看護実践の基盤となる理論を学ぶ科目を配置する。

２）科学的根拠に基づいた質の高い実践を目指した研究のできる基礎的な能力を培うための科目を配置する。

３）高い倫理性を身につけた専門職業人を育成するための科目を配置する。

＜研究者コース＞

１）研究の一連のプロセスを確実に理解し、研究課題の焦点化ができるように科目を配置する。

２）基礎教育や現任教育に関与できるための基礎的な教育力を涵養するための科目を配置する。

＜専門看護師コース（精神看護学・老年看護学・災害看護学）＞

１）人々の多様なニーズに応える高度看護実践能力を培うために、高度実践力、相談力、調整力、倫理調整力、教育力、研究力、の６つの能力を修得できるように科目を３領域（精神看護学・老年看護学・災害看護学）に配置する。

２）学生自身が自らの実践能力を主体的に高められるように科目を配置する。

博士後期課程

博士後期課程においては、前期課程で培った研究力をさらに発展させるための各種の研究方法を駆使する能力やグローバルな視点で探究できる学識を深めるための専門科目と演習等を組み合わせて編成する。

そのため、博士後期課程の「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を次のように定める。

１）看護学の担い手となる研究者として、各種の研究方法を駆使できる力を培うための科目を配置する。

2）グローバルな視点で探求できる教育者として、専門分野の学識を深めるために各専門分野に特論と演習を配置する。
3）看護学の発展に向けて、学際的・国際的視野にたって発信できる力を培う科目を配置する。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

本研究科における育成する人材、「修了認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、受け入れる入学者に次のような能力を求める。

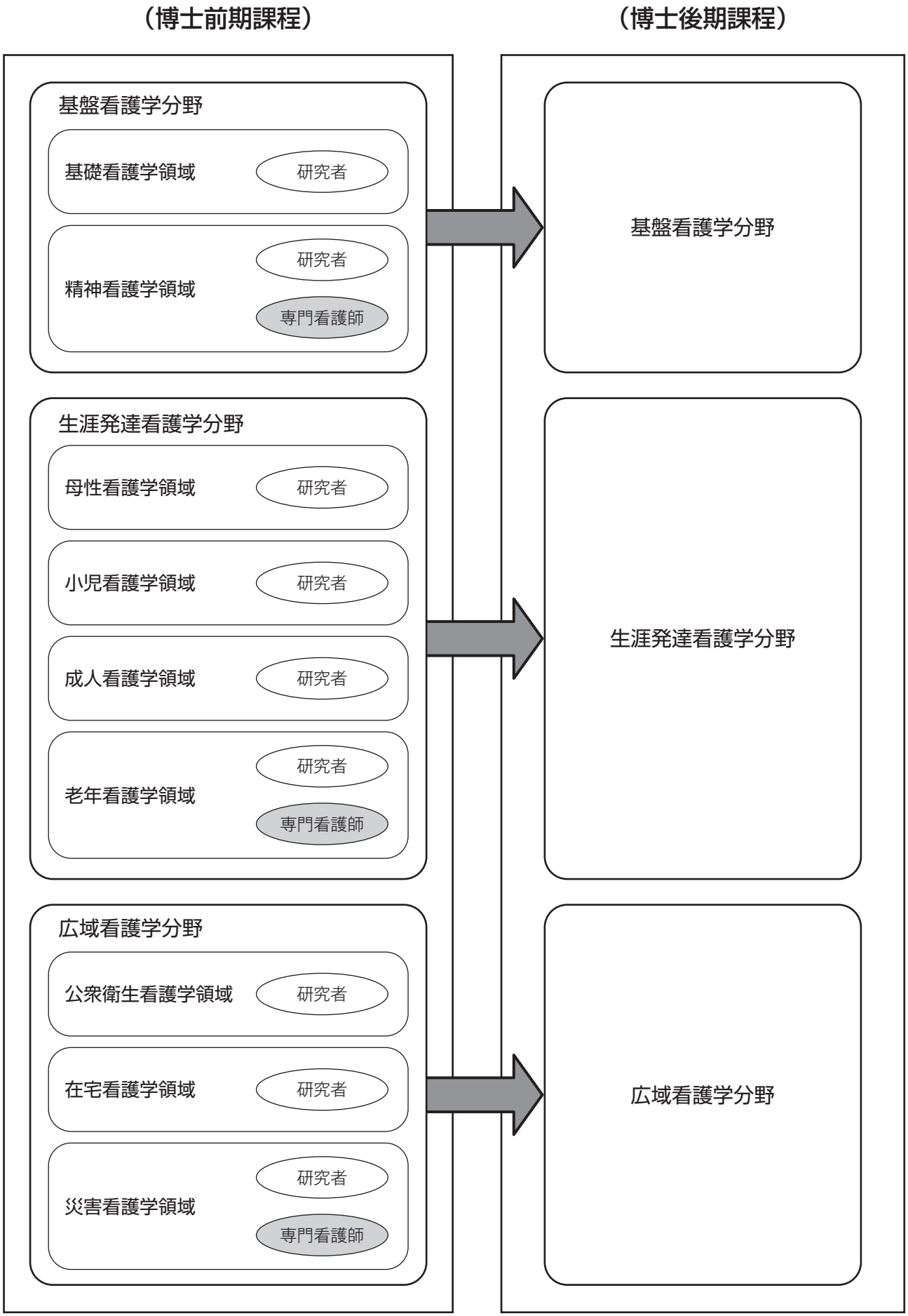
博士前期課程

1）看護学の基礎的能力を有し、深い洞察力を持ち、自らの看護観を表現できる人
2）看護専門職としての自覚と誇りを持ち、看護の質向上を目指せる人
3）看護学の教育者・研究者への強い動機を有し、論理的思考のできる人
4）看護専門職者として、生涯学習への強い動機を有し、それを実現できる人

博士後期課程

1）実践・教育などの多様な場においてリーダーシップを発揮できる人
2）看護学の発展に寄与できる研究力及び教育力を身につけるための強い意志を有する人
3）学際的・国際的な視野を持ち、看護実践・看護学の発展・変革を目指せる人
4）自らが専門とする看護実践・看護学を深め、次世代の育成を目指せる人

看護学研究科の構成


（博士前期課程）
（博士後期課程）
基盤看護学分野
基礎看護学領域
研究者
精神看護学領域
研究者
専門看護師
生涯発達看護学分野
母性看護学領域
研究者
小児看護学領域
研究者
成人看護学領域
研究者
老年看護学領域
研究者
専門看護師
広域看護学分野
公衆衛生看護学領域
研究者
在宅看護学領域
研究者
災害看護学領域
研究者
専門看護師
基盤看護学分野
生涯発達看護学分野
広域看護学分野

看護学研究科
看護学専攻

Ⅱ　履修要項

1　履修の方法と単位修得

<table>
<tr><td>履修方法
履修科目</td><td>⑴ 履修する科目については、定められた期間に IBU.net で履修登録を完了すること。
履修訂正期間後の履修登録変更は認められない。
夏学期　登録期間：４月１日（火）～４月８日（火）
訂正期間：４月15日（火）～４月18日（金）
冬学期　登録期間：９月17日（水）～９月22日（月）
訂正期間：10月１日（水）～10月３日（金）
⑵ 履修登録の際には、事前に主たる研究指導教員への報告を必要とする。</td></tr>
<tr><td>単位修得</td><td>⑴ 単位の認定は、授業への出席と、試験またはレポートの提出等をもっての合格によって行われる。
⑵ 単位の修得及び試験については、別に定める「四天王寺大学大学院履修規程」による。</td></tr>
<tr><td>成績の評価</td><td>本学の成績評価は、以下の基準に基づいて行う。
<table><tr><th>評価</th><th>基　　準</th></tr><tr><td>秀</td><td>目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている（90点以上）</td></tr><tr><td>優</td><td>目標を十分に達成している（80点以上90点未満）</td></tr><tr><td>良</td><td>目標を達成している（70点以上80点未満）</td></tr><tr><td>可</td><td>目標を最低限度達成している（60点以上70点未満）</td></tr><tr><td>不合格</td><td>目標を達成していないので再履修が必要である（60点未満）</td></tr><tr><td>認</td><td>他大学院において修得した単位等</td></tr></table></td></tr>
</table>

【博士前期課程】

2　博士前期課程の科目と履修及び修了までの流れ

履修科目 （授業科目一覧 参照 P.45 ～ 48 ）	＜共通＞ 共通科目においては、看護実践力の質的向上を支える「看護理論」「看護倫理」「哲学的人間論」、研究者としての基礎力を養う「看護研究Ⅰ（総論）」と「看護研究Ⅱ（統計）」、教育者としての基礎力を養う「看護教育論」、国際性を培う「国際看護論」、加えて専門看護師養成に求められる共通科目である「看護管理論」「コンサルテーション論」「看護政策論」「フィジカルアセスメント」「最新病態生理学」「臨床薬理学」で構成している。 ＜研究者コース＞ 研究者コースでは、多様な学生の研究ニーズに対応するため、基礎看護学・精神看護学・母性看護学・小児看護学・成人看護学・老年看護学・公衆衛生看護学・在宅看護学・災害看護学の各領域を設定し、共通科目に加え、それぞれの看護学領域の専門科目において「特論」、「演習」及び「特別研究」を含む科目で構成している。 ＜専門看護師コース（精神看護学・老年看護学・災害看護学）＞ 専門看護師コースでは、精神看護学・老年看護学・災害看護学の各領域の専門看護師コースにおいて、共通科目と専門科目の課題研究のほか、それぞれの領域の科目で構成している。
（履修モデル P.49 ～ 51 参照）	履修について ＜研究者コース＞ ⑴ 共通科目は必修科目（履修モデル表中（◎））である「看護理論」「看護倫理」「看護研究Ⅰ（総論）」を履修しまた専攻領域によって指定された科目を履修する。 ⑵ 専門看護師コースを開設している、精神看護学・老年看護学・災害看護学の３領域においては履修することが望ましい科目（履修モデル表中（■））を、主研究指導教員と相談して履修する科目を選択する。 ⑶ 専門科目では、広い視点を養うために、自身の専攻した領域以外の専門科目１科目を必修選択科目（履修モデル表中（★））として履修する。 ＜専門看護師コース＞ ⑴ 共通科目は必修科目の「看護理論」「看護倫理」「看護研究Ⅰ（総論）」、コース必修の「フィジカルアセスメント」「最新病態生理学」「臨床薬理学」を、また「看護教育論」「看護管理論」「コンサルテーション論」「看護政策論」から１科目２単位以上を選択する。 ⑵ 精神看護学、老年看護学、災害看護学の自身の主たる領域の履修モデルに沿って、演習、実習、課題研究を含む専門科目の必修科目を履修する。

研究指導教員の決定	⑴ 学生の出願時に希望した教員を主研究指導教員とし、副研究指導教員は研究科委員会にて選出する。 ⑵ 主･副研究指導教員に変更の必要が生じた場合には、研究科委員会で検討し、教務課が変更手続きをする。
研究計画発表会	⑴ 研究方法を含めた研究計画の発表を行う。 ⑵ 発表会の時期は、標準修業年限は１年次３月、長期履修年限では１年次３月あるいは２年次９月に行う。なお、発表時期の変更を希望する場合は、迅速に研究科長へ報告する。
研究計画書の審査	⑴ 研究計画発表会で助言・指導を受けた内容に基づき研究計画書を作成し、審査を受ける。研究計画書は研究科委員会開催日の３週間前までに教務課に提出する。提出の際の注意事項と提出物は以下のとおりである。 ⑵ 提出先：教務課　大学院担当者　k-soudan@shitennoji.ac.jp ⑶ 注意事項 ① 原則として、研究発表会にて発表後、研究計画書を提出し、審査を受ける。 ② 研究計画発表会における指摘事項及びそれに対する修正点を記載した用紙を、研究計画書に添付する。 ⑷ 提出物 ① 研究計画書 ② 要旨 ※作成については、「学位論文執筆要領」を参照。
研究計画書の審査基準（研究者コース）	⑴ 論述に一貫性がある。 ⑵ 研究目的が明確である。 ⑶ 研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられている。 ⑷ 研究計画が実行可能かつ遂行できるものである。 ⑸ 研究方法、対象の選定、記述に倫理的配慮がされている。
研究計画書の審査基準（CNS コース）	⑴ 論述に一貫性がある。 ⑵ 高度実践看護における重要な研究テーマである。 ⑶ 専門看護分野における研究の意義・貢献が明確である。 ⑷ 研究目的を達成するために適切な研究方法が用いられている。
研究計画書審査の方法	⑴ 審査は｢書類審査｣を原則とするが､必要に応じて大学院生の参加を要請する。 ⑵ 大学院教務委員会が、審査委員３名（主研究指導教員、審査委員２名）を選定する。 ⑶ 審査委員３名は審査会にて「研究計画書審査基準」を参考に判定案を協議する。 ⑷ 研究科委員会において、研究概要を閲覧し、審査委員による報告を受けた後、

研究計画書を審議し、判定する。最終的な審査判定は、下の研究計画書審査基準（表）で行う。

⑸ 審査結果は、研究科長より大学院生に通知する。

⑹ 研究計画書審査で「条件付承認」あるいは「修正」を受けた場合は、4 週間以内に指摘事項を修正し、再提出する。再提出に際する手続きは同様である。なお、期限内に再提出が難しい場合は、「再提出延長願」を研究科長へ提出し認められれば、さらに 4 週間提出期限を延長できる。

⑺「条件付承認」の場合、修正箇所を審査委員が確認できれば、教務委員会に報告後、「承認」を受ける。

⑻「修正」の場合、上の本審査と同様の流れとなる（P.61 ～ 62 参照）。
審査結果は、下の表の判定とする。

表　研究計画書審査基準

判定		判定基準
承認	変更・修正の必要がない。	研究計画に問題はないが、依頼書・承諾書・質問紙などの文言、説明の仕方、文字の大きさ、構成などに一部不適切な箇所があり、研究協力者等に提出した際に理解しにくい、誤解を招く可能性がある等の問題が懸念される場合は、修正点についてのコメントを添えて承認とする。
条件付承認	研究計画に一部修正すべき点があり、再提出された計画書を審査委員が確認する必要がある。	研究計画に一部修正すべき問題があり、修正を必要とするが、審査委員の意見により容易に修正が可能であり、修正により新たな問題が発生する可能性がないと判断される場合が該当する。
修正	研究計画に修正すべき点があり、再提出された計画書を審査委員が再審査し、研究会委員会が承認する必要がある。	研究計画に修正すべき問題があり、修正あるいは変更の方法によって新たな問題が発生する可能性があるため、研究科委員会で再審査をする必要があると判断される場合、あるいは研究計画の説明が不十分であり、提出された計画書では判断できない場合が該当する。
不承認	研究計画に大きな問題があり、研究科委員会として承認できない。	研究計画に大きな問題があり、根本的に計画を変更する必要がある、あるいはテーマそのものが大きな倫理的問題をはらんでいる場合が該当する。

研究計画書審査後の手続き

研究計画書にて「承認」を受けた場合は、研究倫理審査委員会の審査を受ける。

修士学位論文の作成・学位審査の実施

主研究指導教員の指導のもと、研究結果を論文にまとめ、課程修了の予定年次の定められた期日までに、以下の手続きに沿って修士学位論文を提出し、学位申請を行う。

修士学位論文の提出	「修士学位論文」及び「要旨」等は以下のとおり、所定の期間に教務課へ提出する。 (1) 所定の表紙をつけ、所定のファイルに綴じる。その場合、主研究指導教員と副研究指導教員の承認を得ていること。 (2) 提出物 ① 修士学位審査申請書（様式第１号）１部 ② 修士学位論文３部（正１部・副２部、副はコピーで可） ③ 修士学位論文要旨３部（2,000 字程度）（正１部･副２部､副はコピーで可） ④ 修士学位論文提出証（受領証） (3) 修士学位論文の体裁は「学位論文執筆要領」のとおりとする。 (4) 修士学位論文要旨の体裁は「学位論文執筆要領」のとおりとする。 (5) 提出期日：３月修了は１月第２金曜日 16 時、９月修了は７月第２金曜日 16 時とする。
修士学位論文の審査基準	看護学研究科の修士学位論文については、以下の基準により総合的に判断する。 (1) 研究課題、目的及びその意義が明示されている。 (2) 科学的研究手法に則って、研究が実施されている。 (3) 四天王寺大学研究倫理審査委員会の承認を経て、研究が実施されている。 (4) 研究実施の過程と研究成果が明示されている。 (5) 学術論文体系に則って記述されている。 (6) 研究者を目指す場合には、申請者の新たな知見を加え、そこに創造性が認められる。専門看護師を目指す場合には、専門領域の看護実践の質向上につながる研究である。
前期課程の修了要件	授業科目一覧（P.45 ～ 48 ）を確認すること。前期課程を修了するために必要な修得単位は研究者コース 30 単位以上、専門看護師コース 42 単位以上である。
研究成果発表会	３月または９月中旬（学位授与式まで）に、研究成果の発表を行う。
製本の提出	・提出期限：３月または９月第４金曜日 ・提出先：教務課 ・様式は「学位論文執筆要領」を参照すること。

3　博士前期課程修了の基本スケジュール

3-1　標準修業年限２年（3月修了を基本とする）

年	期	月		院生関連事項	大学関連事項	備考
1年次	夏	4	指導教員決定～研究計画書作成	履修登録	主・副研究指導教員の決定と履修指導	研究科委員会にて主指導教員及び副指導教員を決定する。
	冬			履修登録 研究計画書の作成	主・副研究指導教員の助言	
		3		研究計画発表会 （3月上旬）		発表時の指摘事項に対する回答書を計画書審査時に提出する。
2年次	夏	4～5		履修登録 研究計画書の審査 （4月～5月）	研究計画書審査 （研究科委員会開催時）	審査委員3名の審査を受ける。 「承認」の場合は、研究倫理審査に提出できる。
		6		研究倫理審査		・研究倫理審査の日程は学内ホームページ参照 ・「承認」の場合は、研究活動を開始する。
		8	研究活動の実施～論文作成～論文提出～審査～発表会～学位授与	研究活動	研究指導	
	冬	9		履修登録 修士論文の作成	履修指導・研究指導	
		1		修士論文提出 （正本1部＋副本3部） （1月第2金曜日）		所定の提出物を期限までに教務課へ提出する。
		1		修士論文の審査 （1月下旬）	修士論文審査会 ・論文審査（口頭試問） ・最終試験（論文審査合格者）	・審査員は3名、主査は主指導教員以外の者 ・審査会は、最終試験に進む可否を判定する ・主査は、審査結果報告書を研究科長及び教務課に提出する。
		2		学位授与判定 （3月上旬）	修士論文・最終試験合否判定	研究科委員会にて、論文審査・最終試験の合否判定を行う。
		3		研究成果発表会		・学位授与合格者は研究成果の発表を行う。 ・条件付公開とする。
		3		学位授与（3月中旬） 製本論文の提出 （3月第4金曜日）	学位授与 修正論文の提出 （学位授与前日締切） 製本論文の提出（3月第4金曜日）	審査会での指摘を受けて、修正した論文を指定日までに提出する。 製本論文は教務課へ提出する。

3-2　長期履修３年（3月修了を基本とする）

年	期	月		院生関連事項	大学関連事項	備考
1年	夏	4	指導教員決定～研究計画書作成	履修登録	主・副研究指導教員の決定と履修指導	研究科委員会にて主指導教員及び副指導教員を決定する。
	冬	9		履修登録		
2年次	夏	4		履修登録 研究計画書の作成	主・副研究指導教員の助言	
	冬	9		履修登録 研究計画発表会 （９月上旬）	研究指導	発表時の指摘事項に対する回答書を計画書審査時に提出する。
		10		研究計画書の審査	研究計画書審査 （研究科委員会開催時）	審査委員３名の審査を受ける。 「承認」の場合は、研究倫理審査に提出できる。
				研究倫理審査		・研究倫理審査の日程は学内ホームページ参照 ・「承認」の場合は、研究活動を開始する。
			研究活動の実施～論文作成～論文提出～審査～発表会～学位授与	研究活動	研究指導	
3年次	夏	4		履修登録・研究活動	履修指導・研究指導	
	冬	9		履修登録 修士論文の作成	履修指導・研究指導	
		1		修士論文提出 （正本１部＋副本３部） （１月第２金曜日）		所定の提出物を期限までに教務課へ提出する。
		1		修士論文の審査 （１月下旬）	修士論文審査会 ・論文審査（口頭試問） ・最終試験（論文審査合格者）	・審査員は３名、主査は主指導教員以外の者 ・審査会は、最終試験に進む可否を判定する ・主査は、審査結果報告書を研究科長及び教務課に提出する。
		2		学位授与判定 （３月上旬）	修士論文・最終試験合否判定	研究科委員会にて、論文審査・最終試験の合否判定を行う。
		3		研究成果発表会		・学位授与合格者は研究成果の発表を行う。 ・条件付公開とする。
		3		学位授与（３月中旬） 製本論文の提出 （３月第４金曜日）	学位授与 修正論文の提出 （学位授与前日締切） 製本論文の提出（３月第４金曜日）	審査会での指摘を受けて、修正した論文を指定日までに提出する。 製本論文は教務課へ提出する。

4　授業科目一覧

【博士前期課程　研究者コース】

種別			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	担当者	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 共通 (1)	共通 (2)	研究者コース (1)	研究者コース (2)	ナンバリングコード
共通科目			看護理論	2		西元・泊	1～2	S	◎	○	○		GNCA2001a1
			看護研究Ⅰ(総論)	2		上野(昌)・乗越・泊	1～2	S	○		◎		GNCA2002a1
			看護研究Ⅱ(統計)		2	福井	1～2	W	○		◎		GNCA2003a1
			看護倫理	2		鶴若	1～2	W		◎	○		GNCA2004a1
			国際看護論		2	亀井	1～2	W		◎	○		GNCA2005c1
			哲学的人間論		2	丸橋	1～2	S	○	◎			GNCA2006a1
			看護教育論		2	藤澤	1～2	S	○	○		◎	GNCA2007a1
			看護管理論		2	井上	1～2	S	○	○		◎	GNCA2008a1
			コンサルテーション論		2	郷良	1～2	S	○	◎			GNCA2009c1
			看護政策論		2	岡谷	1～2	W	◎				GNCA2010a1
			フィジカルアセスメント		2	藤本・藤澤	1～2	S	◎				GNCA2011a1
			最新病態生理学		2	仲谷	1～2	S	◎				GNCA2012a1
			臨床薬理学		2	久保	1～2	W	◎				GNCA2013a1
共通科目の最低修得単位数				**6**	**8**	**小計14単位以上**							
専門科目	基盤看護学分野	基礎看護学領域	基礎看護学特論		2	中山	1～2	S	◎	○	◎	○	GNCB2014c0
			基礎看護学演習Ⅰ		2	中山・重年	1～2	W	○	◎	○	○	GNCB2015a0
			基礎看護学演習Ⅱ		2	中山・重年	3～4	S	○	◎	○		GNCB2016a0
			基礎看護学特別研究		8	中山	1～4	S･W	○		◎		GNCB2017c0
		精神看護学領域	精神障害者制度･法律特論		2		1～2	S		◎			GNCC2018c0
			精神科アセスメントと精神科診断学		2		1～2	S	◎				GNCC2019c0
			精神療法		2		1～2	S	◎				GNCC2020c0
			精神科薬物療法		2		1～2	W	◎				GNCC2021c0
			精神看護高度実践看護介入技法		2	村上	1～2	S	◎				GNCC2022c0
			精神障害者ケースマネジメント支援論		2	村上	1～2	W	○	○	◎	○	GNCC2023c0
			リエゾン精神看護学		2	村上	3～4	S	◎	○	○	○	GNCC2024c0
			認知症治療看護援助論		2	山崎(尚)	1～2	W	○	○	◎	○	GNCC2025c0
			精神看護学特別研究		8		1～4	S･W	○	○	◎		GNCC2026c0
	生涯発達看護学分野	母性看護学領域	母性看護学特論		2	鷲尾	1～2	S	◎	○	○	○	GNCD2027c0
			母性看護学演習Ⅰ		2	鷲尾	1～2	W		◎	○	○	GNCD2028a0
			母性看護学演習Ⅱ		2	鷲尾	3～4	S		◎	○		GNCD2029a0
			母性看護学特別研究		8		1～4	S･W	○	○	◎		GNCD2030c0
		小児看護学領域	小児看護学特論		2	西元・藤澤・泊	1～2	S	◎	○	○	○	GNCE2031c0
			小児看護学演習Ⅰ		2	西元・藤澤・泊	1～2	W		◎	○	○	GNCE2032a0
			小児看護学演習Ⅱ		2	西元・藤澤・泊	3～4	S		◎	○		GNCE2033a0
			小児看護学特別研究		8	西元・藤澤・泊	1～4	S･W	○	○	○		GNCE2034c0

種別			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	担当者	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 共通 (1)	共通 (2)	研究者コース (1)	研究者コース (2)	ナンバリングコード
専門科目	生涯発達看護学分野	成人看護学領域	成人看護学特論		2	福田(和)・吉川	1～2	S	◎	○	○	○	GNCF2035c0
			成人看護学演習Ⅰ		2	福田(和)・吉川	1～2	W		◎	○	○	GNCF2036a0
			成人看護学演習Ⅱ		2	福田(和)・吉川	3～4	S		◎	○		GNCF2037a0
			成人看護学特別研究		8	福田(和)・吉川	1～4	S･W	○	○	◎		GNCF2038c0
		老年看護学領域	老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の基盤)		2	山崎(尚)	1～2	S	◎	○	○	○	GNCG1039c0
			老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)		2	山崎(尚)	1～2	S	○	○		◎	GNCG2040c0
			老年看護学特論Ⅲ(病態･治療論)		2	山崎(尚)・片山	1～2	S	◎				GNCG2041c0
			老年看護学特論Ⅳ(看護実践論)		2	山崎(尚)	1～2	W		◎			GNCG2042c0
			老年看護学特論Ⅴ(サポートシステム)		2	山崎(尚)	3～4	S	○			◎	GNCG2043c0
			老年看護学演習Ⅰ(慢性期における老年看護)		2	山崎(尚)・前原	1～2	W	○	◎			GNCG2044a0
			老年看護学演習Ⅱ(ケア施設における老年看護)		2	山崎(尚)・前原	1～2	W		○		◎	GNCG2045a0
			老年看護学特別研究		8	山崎(尚)	1～4	S･W	○	○	◎		GNCG2046c0
	広域看護学分野	公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学特論		2	上野(昌)・岡本(啓)	1～2	S	◎	○	○	○	GNCH2047c0
			公衆衛生看護学演習Ⅰ		2	上野(昌)・岡本(啓)・眞壁	1～2	W		◎	○	○	GNCH2048a0
			公衆衛生看護学演習Ⅱ		2	上野(昌)・岡本(啓)・眞壁	3～4	S		◎	○		GNCH2049a0
			公衆衛生看護学特別研究		8	上野(昌)・岡本(啓)	1～4	S･W	○	○	◎		GNCH2050c0
		在宅看護学領域	在宅看護学特論		2	小林(裕)・乗越	1～2	S	◎	○	○	○	GNCI2051c0
			在宅看護学演習Ⅰ		2	小林(裕)・乗越・矢野	1～2	W		◎	○	○	GNCI2052a0
			在宅看護学演習Ⅱ		2	小林(裕)・乗越・矢野	3～4	S		◎	○		GNCI2053a0
			在宅看護学特別研究		8	小林(裕)・乗越	1～4	S･W	○	○	◎		GNCI2054c0
		災害看護学領域	災害看護対象論		2	亀井	1～2	S	◎	○	○	○	GNCJ2055c0
			災害看護ケア論		2	亀井・梶山・舎利倉	1～2	S		◎	○	○	GNCJ2056c0
			災害と制度		2	亀井	1～2	S	○				GNCJ2057c0
			災害看護援助論		2	亀井・香川・梶山・熊野・今野・舎利倉・米山	1～2	W		◎	○	○	GNCJ2058c0
			防災･減災看護論演習		2	亀井	3～4	S		◎			GNCJ2059a0
			要援護者看護援助論		2	亀井・今野・香川	3～4	S		◎			GNCJ2060c0
			災害看護連携論		2	亀井・熊野	3～4	S	○			◎	GNCJ2061c0
			災害看護学特別研究		8	亀井	1～4	S･W	○	○	◎		GNCJ2062c0
専門科目の最低修得単位数					16	小計16単位以上							
研究者コース修了に必要な修得単位数				6	24	合計30単位以上							

＊「身につけるべき能力」については、P.32 ディプロマ・ポリシーを確認してください。
＊「ナンバリングコード」については、P.64を確認してください。

＜修了要件及び履修方法＞
共通科目から必修 6 単位を含み 14 単位以上、専門科目から 9 つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の「特論」、「演習」、「特別研究」を含み 14 単位以上及び他の領域から 2 単位以上の合計 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【博士前期課程　専門看護師コース（精神看護学・老年看護学・災害看護学）】

種別			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	担当者	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 共通 (1)	共通 (2)	専門看護師コース (1)	専門看護師コース (2)	専門看護師コース (3)	専門看護師コース (4)	ナンバリングコード
共通科目			看護理論	2		西元・泊	1～2	S	◎	○	○				GNDA2001a1
			看護研究Ⅰ（総論）	2		上野（昌）・乗越・泊	1～2	S	○		◎				GNDA2002a1
			看護研究Ⅱ（統計）		2	福井	1～2	W	○		◎				GNDA2003a1
			看護倫理	2		鶴若	1～2	W		◎		○			GNDA2004a1
			国際看護論		2	亀井	1～2	W		◎			○		GNDA2005c1
			哲学的人間論		2	丸橋	1～2	S	○	◎		○			GNDA2006a1
			看護教育論	2	2	藤澤	1～2	S	○	○		◎			GNDA2007a1
			看護管理論		2	井上	1～2	S	○	○		○		◎	GNDA2008a1
			コンサルテーション論		2	郷良	1～2	S	○	○		◎		○	GNDA2009c1
			看護政策論		2	岡谷	1～2	W	○			○	◎	○	GNDA2010a1
			フィジカルアセスメント	2		藤本・藤澤	1～2	S	◎			○			GNDA2011a1
			最新病態生理学	2		仲谷	1～2	S	◎			○			GNDA2012a1
			臨床薬理学	2		久保	1～2	W	◎			○			GNDA2013a1
共通科目の最低修得単位数				14		小計14単位以上									
専門科目	基盤看護学分野	精神看護学領域	精神障害者制度･法律特論		2		1～2	S		○		○	◎		GNDB2014c0
			精神科アセスメントと精神科診断学		2		1～2	S	○			◎			GNDB2015c0
			精神療法		2		1～2	S	○		◎				GNDB2016c0
			精神科薬物療法		2		1～2	W	○		◎				GNDB2017c0
			精神看護高度実践看護介入技法		2	村上	1～2	S	○		○	◎			GNDB2018c0
			精神障害者ケースマネジメント支援論		2	村上	1～2	W	○	○		○		◎	GNDB2019c0
			リエゾン精神看護学		2	村上	3～4	S	○	○	○	◎	○		GNDB2020c0
			認知症治療看護援助論		2	山崎（尚）	1～2	W	○	○	◎	○			GNDB2021c0
			役割開発実習		2	村上	3～4	S	○	○		○	◎	○	GNDB3022a0
			精神科診断･治療実習		2	村上	1～2	W	○		○	◎			GNDB3023a0
			精神看護直接ケア実習		2	村上	1～2	S		○	○	◎	○		GNDB3024a0
			精神看護サブスペシャリティ実習		2	村上	3～4	S	○	○		◎			GNDB3025a0
			相談･調整実習		2	村上	3～4	W	○	○		○		◎	GNDB3026a0
			精神看護学課題研究		4		3～4	S･W	○	○	◎				GNDB3027c0
	生涯発達看護学分野	老年看護学領域	老年看護学特論Ⅰ（老年看護学の基盤）		2	山崎（尚）	1～2	S	◎	○	○				GNDC1028c0
			老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）		2	山崎（尚）	1～2	S	○	○			◎		GNDC2029c0
			老年看護学特論Ⅲ（病態･治療論）		2	山崎（尚）・片山	1～2	S	◎		○				GNDC2030c0
			老年看護学特論Ⅳ（看護実践論）		2	山崎（尚）	1～2	W		◎	○	○			GNDC2031c0
			老年看護学特論Ⅴ（サポートシステム）		2	山崎（尚）	3～4	S	○			○	○	◎	GNDC2032c0
			老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護）		2	山崎（尚）・前原	1～2	W	○	◎	○				GNDC2033a0
			老年看護学演習Ⅱ（ケア施設における老年看護）		2	山崎（尚）・前原	1～2	W		○		◎	○		GNDC2034a0
			老年看護学実習Ⅰ（慢性期における高度実践老年看護）		4	山崎（尚）・前原	3～4	S	○	◎	○	○			GNDC3035a0
			老年看護学実習Ⅱ（ケア施設における高度実践老年看護）		6	山崎（尚）・前原	3～4	S･W		◎			○	○	GNDC3036a0
			老年看護学課題研究		4	山崎（尚）	3～4	S･W	○	○	◎				GNDC3037c0

種別			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	担当者	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 共通 (1)	共通 (2)	専門看護師コース (1)	専門看護師コース (2)	専門看護師コース (3)	専門看護師コース (4)	ナンバリングコード
専門科目	広域看護学分野	災害看護学領域	災害看護対象論		2	亀井	1～2	S	◎	○	○	○	○	○	GNDD2038c0
			災害看護ケア論		2	亀井・梶山・舎利倉	1～2	S		○		◎	○	○	GNDD2039c0
			災害と制度		2	亀井	1～2	S	○				◎	○	GNDD2040c0
			災害看護援助論		2	亀井･香川･梶山･熊野･今野・舎利倉・米山	1～2	W		◎		○	○	○	GNDD2041c0
			防災･減災看護論演習		2	亀井	3～4	S		○		○	◎	○	GNDD2042a0
			要援護者看護援助論		2	亀井・今野・香川	3～4	S		○	○	◎	○		GNDD2043c0
			災害看護連携論		2	亀井・熊野	3～4	S	○			○	○	◎	GNDD2044c0
			災害看護学実習Ⅰ		3	亀井	1～2	W	○		○	◎			GNDD3045a0
			災害看護学実習Ⅱ		2	亀井	3～4	S	○	○		◎			GNDD3046a0
			災害看護学実習Ⅲ		3	亀井	3～4	S		○		○	◎	○	GNDD3047a0
			災害看護学実習Ⅳ		2	亀井	3～4	W	○	○		○	◎	◎	GNDD3048a0
			災害看護学課題研究		4	亀井	3～4	S･W	◎	○	◎				GNDD3049c0
専門科目の最低修得単位数					28	小計16単位以上									
専門看護師コースに必要な修得単位数				14	28	合計42単位以上									

＊「身につけるべき能力」については、P.32 ディプロマ・ポリシーを確認してください。
＊「ナンバリングコード」については、P.64を確認してください。

＜修了要件及び履修方法＞

●共通科目から 14 単位以上（必修 6 単位を含み専門看護師コース必修科目の【フィジカルアセスメント】、【最新病態生理学】、【臨床薬理学】の 6 単位及び【看護教育論】、【看護管理論】、【コンサルテーション論】、【看護政策論】、から 2 単位以上選択）修得するとともに、3 つの領域のうち一つの領域を主たる領域として当該領域の中から【課題研究】を含み 28 単位以上の合計 42 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

●専門看護師の資格を取得せずに修了する場合、主研究指導教員と相談したうえで、上記科目表どおり合計 30 単位以上修得することで「研究者コース」として修了することができる。

5　博士前期課程　履修モデル

5-1　基盤看護学分野

履修計画の参考にしてください

区分	授業科目	配当年次	単位数		基礎看護学	精神看護学	
			必修	選択	研究者コース	研究者コース	専門看護師コース
共通科目	看護理論	1S	2		◎	◎	◎
	看護研究Ⅰ(総論)	1S	2		◎	◎	◎
	看護研究Ⅱ(統計)	1W		2			
	看護倫理	1W	2		◎	◎	◎
	国際看護論	1W		2			
	哲学的人間論	1S		2			
	看護教育論	1S		2			◆ *2
	看護管理論	1S		2			◆ *2
	コンサルテーション論	1S		2			◆ *2
	看護政策論	1W		2			◆ *2
	フィジカルアセスメント	1S		2			○
	最新病態生理学	1S		2			○
	臨床薬理学	1W		2			○
	小計				14	14	14
専門科目	基礎看護学特論	1S		2	○		
	基礎看護学演習Ⅰ	1W		2	○		
	基礎看護学演習Ⅱ	2S		2	○		
	基礎看護学特別研究	1～2通		8	○		
	精神障害者制度･法律特論	1S		2			○
	精神科アセスメントと精神科診断学	1S		2		○	○
	精神療法	1S		2		○	○
	精神科薬物療法	1W		2			○
	精神看護高度実践看護介入技法	1S		2		○	○
	精神障害者ケースマネジメント支援論	1W		2		■	○
	リエゾン精神看護学	2S		2		■	◆ *3
	認知症治療看護援助論	1W		2		■	◆ *3
	役割開発実習	2S		2			○
	精神科診断･治療実習	1W		2			○
	精神看護直接ケア実習	1S		2			○
	精神看護サブスペシャリティ実習	2S		2			○
	相談･調整実習	2W		2			○
	精神看護学課題研究	2通		4			○
	精神看護学特別研究	1～2通		8		○	
	他領域専門科目　*1			2	★	★	
	小計				16	16	28
合計					30	30	42

◎印：看護学研究科博士前期課程の必修科目
○印：選択した専門領域における履修モデルの必修科目
◆印：選択した専門領域における 履修モデルの選択必修科目
■印：選択科目（履修することが望ましい科目）
★印：他領域の専門科目における選択必修科目
無印：自由選択科目
*1：他領域の専門科目から１科目２単位以上を選択し修得する。
*2：看護教育論､看護管理論､コンサルテーション論､看護政策論のうち､1科目２単位以上を選択し修得する。
*3：専門科目精神看護学領域の２科目のうち、１科目２単位以上を選択し修得する。

5-2　生涯発達看護学分野

履修計画の参考にしてください

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	母性看護学 研究者コース	小児看護学 研究者コース	成人看護学 研究者コース	老年看護学 研究者コース	老年看護学 専門看護師コース
共通科目	看護理論	1S	2		◎	◎	◎	◎	◎
	看護研究Ⅰ(総論)	1S	2		◎	◎	◎	◎	◎
	看護研究Ⅱ(統計)	1W		2					
	看護倫理	1W	2		◎	◎	◎	◎	◎
	国際看護論	1W		2					
	哲学的人間論	1S		2					
	看護教育論	1S		2					◆ *2
	看護管理論	1S		2					◆ *2
	コンサルテーション論	1S		2					◆ *2
	看護政策論	1W		2					◆ *2
	フィジカルアセスメント	1S		2					○
	最新病態生理学	1S		2					○
	臨床薬理学	1W		2					○
	小計				14	14	14	14	14
専門科目	母性看護学特論	1S		2	○				
	母性看護学演習Ⅰ	1W		2	○				
	母性看護学演習Ⅱ	2S		2	○				
	母性看護学特別研究	1～2通		8	○				
	小児看護学特論	1S		2		○			
	小児看護学演習Ⅰ	1W		2		○			
	小児看護学演習Ⅱ	2S		2		○			
	小児看護学特別研究	1～2通		8		○			
	成人看護学特論	1S		2			○		
	成人看護学演習Ⅰ	1W		2			○		
	成人看護学演習Ⅱ	2S		2			○		
	成人看護学特別研究	1～2通		8			○		
	老年看護学特論Ⅰ	1S		2				○	○
	老年看護学特論Ⅱ	1S		2				■	○
	老年看護学特論Ⅲ	1S		2					○
	老年看護学特論Ⅳ	1W		2					○
	老年看護学特論Ⅴ	2S		2					○
	老年看護学演習Ⅰ	1W		2					○
	老年看護学演習Ⅱ	1W		2				○	○
	老年看護学実習Ⅰ	2S		4					○
	老年看護学実習Ⅱ	2通		6					○
	老年看護学課題研究	2通		4					○
	老年看護学特別研究	1～2通		8				○	
	他領域専門科目　*1			2	★	★	★	★	
	小計				16	16	16	16	28
合計					30	30	30	30	42

◎印：看護学研究科博士前期課程の必修科目
○印：選択した専門領域における履修モデルの必修科目
◆印：選択した専門領域における 履修モデルの選択必修科目
■印：選択科目（履修することが望ましい科目）
★印：他領域の専門科目における選択必修科目
無印：自由選択科目
*1：他領域の専門科目から１科目２単位以上を選択し修得する。
*2：看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論のうち、1科目２単位以上を選択し修得する。

5-3　広域看護学分野

履修計画の参考にしてください

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	公衆衛生看護学 研究者コース	在宅看護学 研究者コース	災害看護学 研究者コース	災害看護学 専門看護師コース
共通科目	看護理論	1S	2		◎	◎	◎	◎
	看護研究Ⅰ(総論)	1S	2		◎	◎	◎	◎
	看護研究Ⅱ(統計)	1W		2				
	看護倫理	1W	2		◎	◎	◎	◎
	国際看護論	1W		2				
	哲学的人間論	1S		2				
	看護教育論	1S		2				◆ *2
	看護管理論	1S		2				◆ *2
	コンサルテーション論	1S		2				◆ *2
	看護政策論	1W		2				◆ *2
	フィジカルアセスメント	1S		2				○
	最新病態生理学	1S		2				○
	臨床薬理学	1W		2				○
	小計				14	14	14	14
専門科目	公衆衛生看護学特論	1S		2	○			
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	1W		2	○			
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	2S		2	○			
	公衆衛生看護学特別研究	1～2通		8	○			
	在宅看護学特論	1S		2		○		
	在宅看護学演習Ⅰ	1W		2		○		
	在宅看護学演習Ⅱ	2S		2		○		
	在宅看護学特別研究	1～2通		8		○		
	災害看護対象論	1S		2			○	○
	災害看護ケア論	1S		2			○	○
	災害と制度	1S		2			■ *3	○
	災害看護援助論	1W		2			■ *3	○
	防災･減災看護論演習	2S		2			○ *3	○
	要援護者看護援助論	2S		2			■ *3	○
	災害看護連携論	2S		2			■ *3	○
	災害看護学実習Ⅰ	1W		3				○
	災害看護学実習Ⅱ	2S		2				○
	災害看護学実習Ⅲ	2S		3				○
	災害看護学実習Ⅳ	2W		2				○
	災害看護学課題研究	2通		4				○
	災害看護学特別研究	1～2通		8			○	
	他領域専門科目　*1			2	★	★	★	
	小計				16	16	16	28
合計					30	30	30	42

◎印：看護学研究科博士前期課程の必修科目
○印：選択した専門領域における履修モデルの必修科目
◆印：選択した専門領域における履修モデルの選択必修科目
■印：選択科目（履修することが望ましい科目）
★印：他領域の専門科目における選択必修科目
無印：自由選択科目
*1：他領域の専門科目から１科目２単位以上を選択し修得する。
*2：看護教育論、看護管理論、コンサルテーション論、看護政策論のうち、1科目２単位以上を選択し修得する。
*3：専門科目災害看護学領域のうち１科目２単位以上を選択し修得する。

【博士後期課程】

6　博士後期課程の科目と履修及び修了までの流れ

履修科目	博士後期課程における授業科目は、ディプロマ・ポリシーに従って共通科目と専門科目及び特別研究から構成されている。 ＜共通科目＞ 看護学研究者・教育者となるために必要な看護学の学問的位置づけを探求する「看護科学哲学」、高度な研究方法論を教授する「看護学研究方法論」、研究のために必要な高度統計学を教授する「高等社会統計学」、教育力を高めるための「看護教育学」で構成している。 ＜専門科目＞ 専門科目は、基盤看護学、生涯発達看護学、広域看護学分野の３分野に区分し、基盤看護学は基礎看護学及び精神看護学、生涯発達看護学は母子看護学、成人看護学及び老年看護学、広域看護学は公衆衛生看護学、在宅看護学及び災害看護学において「特論」と「演習科目」で構成している。 ＜特別研究＞ 学生各自の研究課題に応じて、学術性の高い研究計画を立案し、研究活動を展開して博士学位論文を作成するための「看護学特別研究」で構成している。
研究指導教員の決定	⑴ 学生の出願時に希望した教員を主研究指導教員とし、副研究指導教員は研究科委員会にて選出する。 ⑵ 主研究指導教員と副研究指導教員に変更の必要が生じた場合には、研究科委員会で検討し、教務課が変更手続きをする。
研究計画発表会	⑴ 研究方法を含めた研究計画の発表を行う。 ⑵ 発表会の時期は、標準修業年限は１年次３月、長期履修年限では１年次３月あるいは２年次９月に行う。なお、発表時期の変更を希望する場合は、迅速に研究科長へ報告する。
研究計画書の審査	⑴ 研究計画発表会で助言・指導を受けた内容に基づき研究計画書を作成し、審査を受ける。研究計画書は研究科委員会開催日の３週間前までに教務課に提出する。提出の際の注意事項と提出物は以下のとおりである。 ⑵ 提出先：教務課　大学院担当者　k-soudan@shitennoji.ac.jp ⑶ 注意事項 ① 原則として、研究発表会にて発表後、研究計画書の審査を受ける。 ② 研究計画発表会における指摘事項及びそれに対する修正点を記載した用紙を、研究計画書に添付する。 ⑷ 提出物 ① 研究計画書 ② 要旨 ※作成については、「学位論文執筆要領」を参照。

研究計画書の審査基準	⑴ 論述に一貫性がある。 ⑵ 看護学における学術的意義、新規性、創造性等を有している。 ⑶ 看護学における高度な専門性と深い学識に裏付けられている。 ⑷ 国内外における先行研究や関連の文献を十分に検討し、自分の研究を適切に位置づけている。 ⑸ 看護学における研究の意義・貢献が明確に示されている。 ⑹ 研究目的が明確である。 ⑺ 研究目的を達成するために適切かつ妥当な研究方法が用いられている。 ⑻ 研究方法が具体的に論述されている。 ⑼ 研究計画は実行可能かつ遂行できるものである。 ⑽ 研究倫理について十分理解し、それを遵守している。
研究計画書審査の方法	⑴ 審査は「書類審査」を原則とするが、必要に応じて大学院生の参加を 要請する。 ⑵ 大学院教務委員会が、審査委員３名（副研究指導教員、審査委員２名）を選定する。 ⑶ 審査委員３名は審査会で「研究計画書審査基準」を参考に審査する。 ⑷ 研究科委員会において、研究概要を閲覧し、審査委員による報告を受けた後、研究計画書を審議し、判定する。最終的な審査判定は、下の研究計画書審査基準で行う。 ⑸ 審査結果は、研究科長より大学院生に通知する。 ⑹ 研究計画書審査で「条件付承認」あるいは「修正」を受けた場合は、４週間以内に指摘事項を修正し、再提出する。再提出に際する手続きは同様である。なお、期限内に再提出が難しい場合は、「再提出延長願」を研究科長へ提出し認められれば、さらに４週間提出期限を延長できる。 ⑺「条件付承認」の場合、修正箇所を審査委員が確認できれば、教務委員会に報告後、「承認」を受ける。 ⑻「修正」の場合、上の本審査と同様の流れとなる（P61 ～ 62 参照）。 審査結果は、下の表の判定とする。

表　研究計画書審査基準

判定		判定基準
承認	変更・修正の必要がない。	研究計画に問題はないが、依頼書・承諾書・質問紙などの文言、説明の仕方、文字の大きさ、構成などに一部不適切な箇所があり、研究協力者等に提出した際に理解しにくい、誤解を招く可能性がある等の問題が懸念される場合は、修正点についてのコメントを添えて承認とする。
条件付承認	研究計画に一部修正すべき点があり、再提出された計画書を審査委員が確認する必要がある。	研究計画に一部修正すべき問題があり、修正を必要とするが、審査委員の意見により容易に修正が可能であり、修正により新たな問題が発生する可能性がないと判断される場合が該当する。
修正	研究計画に修正すべき点があり、再提出された計画書を審査委員が再審査し、研究会委員会が承認する必要がある。	研究計画に修正すべき問題があり、修正あるいは変更の方法によって新たな問題が発生する可能性があるため、研究科委員会で再審査をする必要があると判断される場合、あるいは研究計画の説明が不十分であり、提出された計画書では判断できない場合が該当する。
不承認	研究計画に大きな問題があり、研究科委員会として承認できない。	研究計画に大きな問題があり、根本的に計画を変更する必要がある、あるいはテーマそのものが大きな倫理的問題をはらんでいる場合が該当する。

研究計画書審査後の手続き

研究計画書審査にて「承認」を受けた場合は、研究倫理審査委員会の審査を受ける。

博士学位論文の作成・学会発表及び学術誌への投稿

主研究指導教員の指導のもと、博士学位論文に関係した内容を国内外での学術集会での発表、及び学術誌へ投稿する。

博士論文予備審査

博士論文を提出するためには、本研究科の博士後期課程在学中もしくは大学院学則に定める研究生在籍中に、予備審査を受け、合格しなければならない。合格した場合は、本審査に進む。

予備審査の資格要件

予備審査の申請には、次の各号のすべてを満たしていなければならない。

(1) 研究科博士後期課程の３年次以上に在学し、予備審査申請日の属する学期末までの通算在学期間が６年以内であること。ただし､満期退学者については、満期退学の日から３年以内に申請すること。（期間の算定に際しては、休学期間を参入しない）

(2) 博士論文を提出するまでに、研究計画書審査及び研究倫理審査を終了し、研究活動を実施していること。

(3) 博士論文を提出するまでに、博士論文に関係した内容を、日本学術会議協力

	学術研究団体に所属している学会あるいは国際学会の学術集会で１回以上発表していること。 ⑷ 博士学位論文に関係した内容を、査読付き学術専門誌にファーストオーサーとして１編以上、掲載または受理されていること。 ⑸ 予備審査の申請について、主研究指導教員と副研究指導教員２人以上の承認を得ていること。
予備審査 申請手続き	⑴ 予備審査の申請には、次の提出書類を一括して教務課へ提出すること。 ① 予備備審査申請書　１部 ② 博士論文　３部（正１部、副２部　副はコピー可） ③ 博士論文要旨　３部（内容は和文（2,000 字）･英文（400words 程度））（正１部、副２部　副はコピー可） ④ 副論文１本（下の全ての条件に該当する必要がある） ・博士学位論文の題目と関連のある日本学術会議協力学術研究団体の査読付き学術専門誌にファーストオーサーとして掲載された論文、未掲載の場合には掲載証明書（コピー３部）。 ⑤ 博士学位論文に関係した内容を日本学術会議協力学術研究団体に所属している学会あるいは国際学会学術集会で発表した抄録３部（コピー可）。 ⑵ 提出締切日：11 月または５月第２金曜日 16 時 ⑶ 予備審査結果は研究科長より大学院生に通知する。
学位審査の資格要件	学位審査には、次の各号をすべて満たしていなければならない。 ⑴ 博士論文予備審査に合格していること。 ⑵ 研究科博士後期課程の３年次以上に在学し、学位申請日の属する年度末までの通算在学期間が原則６年以内であること。 ⑶ 学位審査について、主研究指導教員と副研究指導教員２人以上の承認を得ていること。
学位審査申請手続き（本審査）	⑴ 博士の学位審査は、次に掲げる書類の提出によって行う。 ① 学位審査申請書（様式第１号）　１部 ② 博士学位論文　３部（正１部、副２部　副はコピー可） ③ 博士学位論文要旨　３部（内容は和文（2,000 字）･英文（400words 程度））（正１部、副２部　副はコピー可） ※内容は和文（2,000 字）・英文（400words 程度）を含む。 ④ 博士学位論文提出証（受領証） ⑤ 副論文（下の全ての条件に該当する必要がある） ・博士後期課程入学後博士学位論文の題目と関連のある日本学術会議協力学術研究団体の査読付き学術専門誌にファーストオーサーとして掲載された論文、未掲載の場合には掲載証明書（コピー３部）。 ⑥ 四天王寺大学機関リポジトリ登録申請書兼公開許諾書又は四天王寺大学

	機関リポジトリ登録申請書 ⑦ 審査手数料領収書１部（写し１部） ⑵ 博士学位論文の体裁は「学位論文執筆要領」を参照する。 ⑶ 博士学位論文要旨の体裁は別途指示する。 学位審査申請提出締切日：１月または７月第２金曜日 16 時
博士学位論文審査基準	看護学研究科の博士学位論文については、以下の基準により総合的に判断する。 ⑴ 看護学における博士としての十分な知識と研究能力を有し、看護学の発展に貢献できる。 ⑵ 四天王寺大学研究倫理審査委員会の承認を経て、研究が実施されている。（人を対象とした研究の場合） ⑶ 研究の背景・意義について、先行研究の検討に基づいて明確に記述されている。 ⑷ 先行研究や資料が適切に取り扱われており、当該研究分野における研究の水準に達している。 ⑸ 当該研究領域の博士論文として、独自の研究結果に基づき一貫した論旨で構成されている。 ⑹ 当該研究領域の理論的見地または実証的見地からみて、新規性、創造性、重要性、有用性が認められる。 ⑺ 論文審査委員会においての発表や質疑応答の内容が適切である。
学位審査	博士学位論文の審査及び最終試験を行い、学位授与の可否について審査する。
後期課程の修了要件	授業科目一覧（P.59 ）を確認すること。後期課程を修了するために必要な修得単位は 18 単位以上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
研究成果発表会	３月上旬から３月中旬（学位授与式まで）に、研究成果の発表を行う。
製本の提出	・提出期限：３月または９月第４金曜日 ・提出先：教務課 ・様式は「学位論文執筆要領」を参照すること。

7　博士後期課程修了の基本スケジュール

7-1　標準修業年限３年（３月修了を基本とする）

年	期	月		院生関連事項	大学関連事項	備考
1年次	夏	4	指導教員決定～研究計画書作成	履修登録	主・副研究指導教員の決定と履修指導	研究科委員会にて主指導教員及び副指導教員を決定する。
	冬	9		履修登録 研究計画書の作成	履修指導 主・副研究指導教員の助言	
		3		研究計画発表会		発表時の指摘事項に対する回答書を計画書審査時に提出する。
2年次	夏	4		履修登録 研究計画書の審査	研究計画書審査 （研究科委員会開催時）	・審査委員３名の審査を受ける。 ・審査会の結果報告を受け、研究科委員会にて審議を行う。 ・「承認」の場合は、研究倫理審査に提出できる。
				研究倫理審査 （６～８月）	研究指導	・研究倫理審査の日程は学内ホームページ参照 ・「承認」の場合は、研究活動を開始する。
3年次	冬	11	論文の完成・審査～学位授与判定	論文提出 （11月第２金曜日）	（正本１部＋副本２部）	所定の提出物を期限までに教務課へ提出する
		11		審査論文の予備審査 （11月下旬）		・審査委員３名の予備審査を受ける。 ・審査会は、本審査に進む可否を含め、判定する。
		1		修正論文提出 （１月第２金曜日）	・（正本１部＋副本２部） ・副論文	所定の提出物を期限までに教務課へ提出する。
		2		修正論文の本審査 （１月下旬から２月）	博士論文審査会 ・論文審査（口頭試問） ・最終試験（論文審査合格者）	・審査委員３名（予備審査委員と同じ）の審査を受ける。 ・審査会は、最終試験に進む可否を判定する ・主査は、審査結果報告書を研究科長及び教務課に提出する。
		3		学位授与判定 （３月上旬）	博士論文・最終試験合否判定	・研究科委員会にて、論文審査・最終試験の合否判定を行う。
		3	発表会	研究成果発表会		・学位授与合格者は研究成果の発表を行う。 ・条件付公開とする。
		3	学位授与	学位授与（３月中旬） 製本論文の提出 （３月第４金曜日） 博士論文の公表 ３ヶ月以内に論文要旨及び審査結果要旨 Web 公開１年以内に全文 Web 公開	学位授与 修正論文の提出 （学位授与前日締切） 製本論文の提出（３月第４金曜日）	・審査会における指摘を受けて修正した論文を指定日までに提出する。 ・製本論文は教務課へ提出する。

7-2　長期履修４年（３月修了を基本とする）

年	期	月		院生関連事項	大学関連事項	備考
1年次	夏	4	指導教員決定～研究計画書作成	履修登録	主・副研究指導教員の決定と履修指導	研究科委員会にて主指導教員及び副指導教員を決定する。
	冬	9		履修登録		
2年次	冬	9		履修登録 研究計画発表会	履修指導	発表時の指摘事項に対する回答書を計画書審査時に提出する。
		10		研究計画書の審査	研究計画書審査 （研究科委員会開催時）	・審査委員３名の審査を受ける。 ・審査会の結果報告を受け、研究科委員会にて審議を行う。 ・「承認」の場合は、研究倫理審査に提出できる。
				研究倫理審査	研究指導	・研究倫理審査の日程は学内ホームページ参照 ・「承認」の場合は、研究活動を開始する。
3年次	夏	4	研究	履修登録・研究活動	履修指導・研究指導	
	冬	9		履修登録・研究活動	履修指導・研究指導	
4年次	冬	11	論文の完成・審査～学位授与判定	予備審査論文提出 （11月第２金曜日）	（正本１部＋副本２部）	所定の提出物を期限までに教務課へ提出する
		11		予備審査論文の審査 （11月下旬）		・審査委員3名の予備審査を受ける。 ・審査会は、本審査に進む可否を判定する。
		1		本審査論文提出 （１月第２金曜日）	・（正本１部＋副本２部） ・副論文	所定の提出物を期限までに教務課へ提出する。
		1		本審査論文の審査 （１月下旬から２月）	博士論文審査会 ・論文審査（口頭試問） ・最終試験（論文審査合格者）	・審査委員３名（予備審査委員と同じ）の審査を受ける。 ・審査会は、最終試験に進む可否を判定する ・主査は、審査結果報告書を研究科長及び教務課に提出する。
		2		学位授与判定 （３月上旬）	博士論文・最終試験合否判定	・研究科委員会にて、論文審査・最終試験の合否判定を行う。
		3	発表会～学位授与	研究成果発表会		・学位授与合格者は研究成果の発表を行う。 ・条件付公開とする。
		3		学位授与（３月中旬） 製本論文の提出 （３月第４金曜日） 博士論文の公表 ３ヶ月以内に論文要旨及び審査結果要旨Web公開１年以内に全文Web公開	学位授与 修正論文の提出 （学位授与前日締切） 製本論文の提出（３月第４金曜日）	・審査会における指摘を受けて修正した論文を指定日までに提出する。 ・製本論文は教務課へ提出する。

8　授業科目一覧

【博士後期課程】

種別		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	担当者	配当セメスター	開講学期	身につけるべき能力 (1)	身につけるべき能力 (2)	身につけるべき能力 (3)	ナンバリングコード
共通科目		看護科学哲学	2		髙橋(照)・松葉	1～2	S	◎	○	○	GNEA3001c1
		看護学研究方法論	2		上野(昌)・亀井・泊	1～2	S	○		◎	GNEA3002c1
		高等社会統計学		2	森本	1～2	W	○		◎	GNEA3003c1
		看護教育学		2	中山	1～2	W		◎		GNEA3004c1
共通科目の最低修得単位数			4	2	小計6単位以上						
専門科目	基盤看護学分野	基礎看護学特論		2	中山	1～2	S･W	◎	○		GNEB3022c0
		基礎看護学演習		2	中山	3～4	S･W	○		◎	GNEB3023c0
		精神看護学特論		2		1～2	S･W	◎	○		GNEB3007c0
		精神看護学演習		2		3～4	S･W	○		◎	GNEB3008c0
	生涯発達看護学分野	母子看護学特論		2	西元・藤澤・泊	1～2	S･W	◎	○		GNEC3009c0
		母子看護学演習		2	西元・藤澤・泊	3～4	S･W	○		◎	GNEC3010c0
		成人看護学特論		2	福田(和)・吉川	1～2	S･W	◎	○		GNEC3011c0
		成人看護学演習		2	福田(和)・吉川	3～4	S･W	○		◎	GNEC3012c0
		老年看護学特論		2	山崎(尚)	1～2	S･W	◎	○		GNEC3013c0
		老年看護学演習		2	山崎(尚)	3～4	S･W	○		◎	GNEC3014c0
	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論		2	上野(昌)・岡本(啓)	1～2	S･W	◎	○		GNED3015c0
		公衆衛生看護学演習		2	上野(昌)・岡本(啓)	3～4	S･W	○		◎	GNED3016c0
		在宅看護学特論		2	乗越・小林(裕)	1～2	S･W	◎	○		GNED3017c0
		在宅看護学演習		2	乗越・小林(裕)	3～4	S･W	○		◎	GNED3018c0
		災害看護学特論		2	亀井	1～2	S･W	◎	○		GNED3019c0
		災害看護学演習		2	亀井	3～4	S･W	○		◎	GNED3020c0
専門科目の最低修得単位数				4	小計4単位以上						
特別研究		看護学特別研究	8		上野(昌)・岡本(啓)・亀井・小林(裕)・乗越・福田(和)・山崎(尚)・吉川	1～6	S･W	◎		◎	GNEE3021c0
特別研究の修得単位数			8		小計8単位						
修了に必要な最低修得単位数			12	6	合計18単位以上						

＊「身につけるべき能力」については、P.33 ディプロマ・ポリシーを確認してください。
＊「ナンバリングコード」については、P.64を確認してください。

＜修了要件及び履修方法＞
共通科目 6 単位、専門科目の専攻する分野から 4 単位以上、特別研究 8 単位の合計 18 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

研究室について

看護学研究科院生研究室　(6A-B119)
看護学研究科院生資料室　(6A-B112)

看護学研究科の院生専用の研究室と資料室があります。
・机、ロッカー等がありますのでご利用ください。研究室への入室は暗証番号が必要となります。
・廊下にコピー機を設置しております。ご利用の際には暗証番号が必要となります。
※各暗証番号につきましては、教務課までお問い合わせください。
・研究室で利用できる貸出制のノートパソコンがあります。
　高等教育推進センター（受付時間　9：00 ～ 17：30）にて貸出手続きを行ってください。
・研究室内のプリンター及び廊下のコピー機について、用紙補充やトナー交換が必要となった場合、教務課で必要なものを受け取り、各自で補充・交換等の対応をお願いします。

9　博士後期課程　履修モデル例

履修計画の参考にしてください

区分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	基盤看護学（理論看護）	基盤看護学（精神看護）	生涯発達看護学（母子看護）	生涯発達看護学（成人看護）	生涯発達看護学（老年）	広域看護学（公衆衛生）	広域看護学（在宅）	広域看護学（災害）
共通科目		看護科学哲学	1S	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		看護学研究方法論	1S	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		高等社会統計学	1W		2						○	○	
		看護教育学	1W		2	○	○	○	○	○			○
		小計				6	6	6	6	6	6	6	6
専門科目	基盤看護学分野	基礎看護学特論	1通		2	○							
		基礎看護学演習	2通		2	○							
		精神看護学特論	1通		2		○						
		精神看護学演習	2通		2		○						
	生涯発達看護学分野	母子看護学特論	1通		2			○					
		母子看護学演習	2通		2			○					
		成人看護学特論	1通		2				○				
		成人看護学演習	2通		2				○				
		老年看護学特論	1通		2					○			
		老年看護学演習	2通		2					○			
	広域看護学分野	公衆衛生看護学特論	1通		2						○		
		公衆衛生看護学演習	2通		2						○		
		在宅看護学特論	1通		2							○	
		在宅看護学演習	2通		2							○	
		災害看護学特論	1通		2								○
		災害看護学演習	2通		2								○
		小計				4	4	4	4	4	4	4	4
特別研究		看護学特別研究	1～3通	8		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		小計				8	8	8	8	8	8	8	8
合計						18	18	18	18	18	18	18	18

◎印：看護学研究科博士後期課程の必修科目
○印：選択した専門領域における履修モデルの必修科目

10　研究計画審査

10-1　研究計画書審査手順（博士前期・後期課程共通）

審査前：教務委員会

研究計画書受領 → 審査委員の選定・依頼・決定

＊大学院生に研究計画書受領の連絡をする。

審査：審査委員

審査委員にて審査会日程の決定 → 大学院教務委員会に審査日の連絡

↓

審査会

＊審査委員との日程調整、大学院生への審査会への参加要請等の連絡は、博士前期課程は主研究指導教員、博士後期課程は副研究指導教員が行う。

↓

研究計画書審査判定案の作成 → 大学院教務委員会に審査結果報告書の提出

↓

研究科委員会にて判定案審議・判定

＊研究科委員会当日の司会は、大学院教務委員長が行い研究概要の説明は、主研究指導教員または副研究指導教員が行う。判定案の報告は、それ以外の審査員が行う。

審査後：教務委員会

研究計画書　再提出受領 → 審査員へ依頼

＊大学院生に研究計画書受領の連絡をする。

審査後：審査委員

再提出計画書を受領後、4週間以内（あるいは8週間以内）に、審査委員で判定案の作成

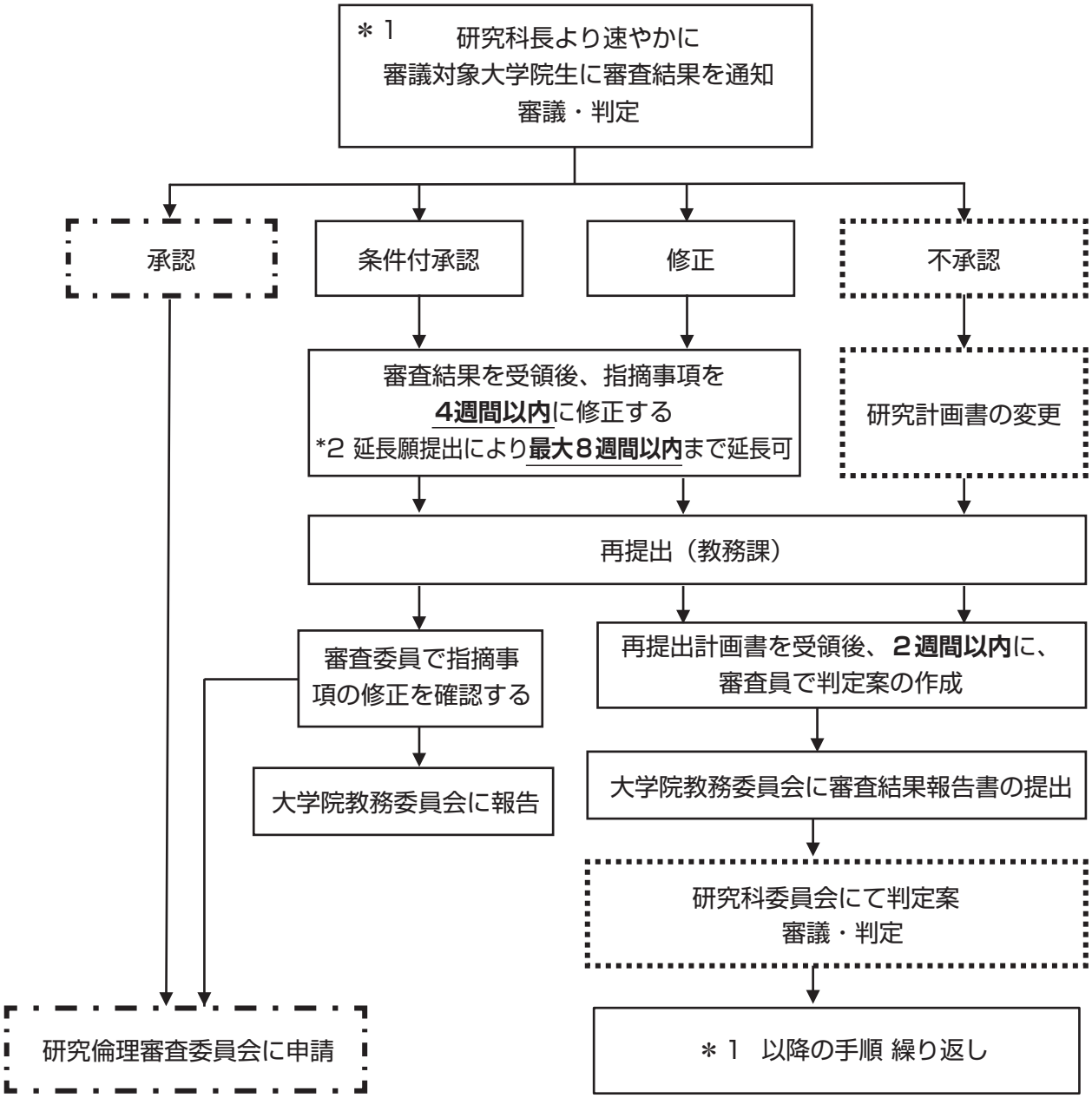
↓

大学院教務委員会に審査結果報告書の提出

↓

研究科委員会にて判定案 審議・判定

10-2　研究科委員会による研究計画書判定後の流れ（博士前期・後期課程共通）



*2　8週間を超える場合は、「新規」申請を行う必要がある。

11　後期課程学位授与申請手続の流れ

単位修得

所定の授業科目を履修し，10 単位以上修得（「看護学特別研究」8 単位以外）

予備審査申請資格の事前確認

予備審査を受ける前に，下の内容を主指導教員とともに確認する
① 研究科博士後期課程に 3 年次以上在学し，予備審査申請日の属する学期末までの通算在学期間が 6 年以内である（ただし，満期退学者は満期退学日から 3 年以内に申請すること）
② 博士論文（草稿）を提出するまでに，研究計画書審査および研究倫理審査を終了し，研究活動を実施している
③ 博士論文（草稿）を提出するまでに，博士論文に関係した内容を，日本学術会議協力学術研究団体に所属している学会あるいは国際学会学術集会で 1 回以上発表している
④ 博士論文（草稿）を提出するまでに，博士論文に関係した内容を日本学術会議協力学術研究団体の査読付学術専門誌にファーストオーサーとして掲載または受理されている

予備審査申請

【時期】3 月修了予定者：11 月　9 月修了予定者：7 月　各第 2 金曜日（16 時）
①予備審査申請書 1 部　②博士論文 3 部（正 1 部，副 2 部 副はコピー可）
③博士論文要旨 3 部（正 1 部，副 2 部 副はコピー可）
④副論文 1 本（コピー 3 部）　⑤学会発表抄録 3 部（コピー可）

→ 論文受理後，審査委員決定 ※研究科委員会

予備審査会

【時期】3 月修了予定者：11 月下旬　9 月修了予定者：7 月下旬
【審査方法】発表 30 分　質疑応答 30 分

→ 本審査申請の可否判定 ※研究科委員会

本審査申請資格の事前確認

本審査を受ける前に，下の内容をすべて満たしていることを主指導教員とともに確認する
① 博士論文予備審査に合格している
② 研究科博士後期課程の 3 年次以上に在学し，本審査申請日の属する学期末までの通算在学期間が原則 6 年以内である
③ 主指導教員及び副指導教員 2 人以上の承認を得ている

本審査申請

【時期】3 月修了予定者：1 月、9 月修了予定者：8 月　各第 2 金曜日（16 時）
① 学位審査申請書（様式第 1 号）1 部
② 博士学位論文 3 部（正 1 部，副 2 部 副はコピー可）
③ 博士学位論文要旨 3 部（正 1 部 副 2 部 副はコピー可）
④ 博士学位論文提出証（受領証）
⑤ 副論文 1 本（コピー 3 部）
⑥ リポジトリ登録申請書兼公開許諾書又はリポジトリ登録申請書
⑦ 審査手数料領収書 1 部（写し 1 部）

→ 論文受理後，審査委員決定 ※研究科委員会

本審査会

【時期】3 月修了予定者：1 月下旬、9 月修了予定者：8 月下旬
【審査方法】口頭試問 90 分　最終試験 30 分　※主査 1 名・副査 2 名以上

→ 合否判定 ※研究科委員会

発表会

【時期】3 月修了予定者：3 月中旬　9 月修了予定者：9 月上旬

学位授与式

3 月または 9 月中旬　四天王寺大学において挙行

学位論文製本提出

製本を 3 月または 9 月の第 4 金曜日 16 時までに教務課に提出する

12　ナンバリングについて

ナンバリングとは、区分や水準等をもとに授業科目に番号を付けることで、カリキュラム全体の中での各授業科目の学修の段階や順序を表すものです。履修登録や学修の上での参考にしてください。

[ナンバリングコードの表示と見方]

10桁のアルファベット・数字で表します。

G	N	CA	1	001	a	0
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

①第1区分コード　……　大学院に関する科目で区分
②第2区分コード　……　研究科・専攻で区分
③第3区分コード　……　課程・コース・分野・領域で区分
※①～③の詳細は、以下の「区分コード表」を確認してください。
④水準コード　……　1：初級レベル［入門・導入的な内容の科目］
……　2：中級レベル［発展的・応用的な内容の科目］
……　3：上級レベル［総合的かつ高度な内容の科目］
⑤科目コード　……　原則、学則に規定された科目の順序
⑥授業での使用言語　……　a：日本語 b：英語 c：日本語及び英語 d：その他
⑦科目区分コード　……　0：専門　1：共通

区分コード表

①第1区分コード		②第2区分コード		③第3区分コード	
	コード	研究科・専攻	コード	課程・コース・分野・領域	コード
大学院 Graduate School	G	看護学研究科 看護学専攻 Department of Nursing, Graduate School of Nursing	N	博士前期課程　研究者コース　共通科目	CA
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 基盤看護学分野　基礎看護学領域	CB
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 基盤看護学分野　精神看護学領域	CC
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 生涯発達看護学分野　母性看護学領域	CD
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 生涯発達看護学分野　小児看護領域	CE
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 生涯発達看護学分野　成人看護学領域	CF
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 生涯発達看護学分野　老年看護学領域	CG
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 広域看護学分野　公衆衛生看護学領域	CH
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 広域看護学分野　在宅看護学領域	CI
				博士前期課程　研究者コース　専門科目 広域看護学分野　災害看護学領域	CJ
				博士前期課程　専門看護師コース　共通科目	DA
				博士前期課程　専門看護師コース　専門科目 基盤看護学分野　精神看護学領域	DB
				博士前期課程　専門看護師コース　専門科目 生涯発達看護学分野　老年看護学領域	DC
				博士前期課程　専門看護師コース　専門科目 広域看護学分野　災害看護学領域	DD
				博士後期課程　共通科目	EA
				博士後期課程　専門科目　基盤看護学分野	EB
				博士後期課程　専門科目　生涯発達看護学分野	EC
				博士後期課程　専門科目　広域看護学分野	ED
				博士後期課程　特別研究	EE

13　履修系統図

履修系統図とは、ディプロマ・ポリシーで示されている「修了時点において学生が身につけるべき能力」を修得するために科目がどのように配置されているのか、つまり、各科目の関連性やつながりを体系的に明示したものです。

14-1　看護学研究科看護学専攻　博士前期課程　研究者コース

ディプロマポリシー		1年次
〈共通〉1)	看護実践を科学的・論理的に探求できる。 看護実践に潜む経験知を大切にしながらも、根拠に基づく看護を目指して、看護現象を科学的・論理的に探求できる。	看護理論 フィジカルアセスメント 最新病態生理学 基礎看護学特論 精神科アセスメントと精神科診断学 精神療法 精神看護高度実践看護介入技法 母性看護学特論 小児看護学特論 成人看護学特論 老年看護学特論Ⅰ（老年看護学の基盤） 老年看護学特論Ⅲ（病態・治療論） 公衆衛生看護学特論 在宅看護学特論 災害看護対象論 災害と制度 看護政策論 臨床薬理学 精神科薬物療法
〈共通〉2)	高い倫理性を身につけ、看護の質向上に関与できる。 看護職者としての誇りと高い自覚に基づいて、常に理想の看護を探求しながら、人間と命の尊厳を遵守し、絶えず看護実践・研究・教育の質の向上に関与できる。	哲学的人間論 コンサルテーション論 精神障害者制度・法律特論 災害看護ケア論 看護倫理 国際看護論 基礎看護学演習Ⅰ 精神障害者ケースマネジメント支援論 認知症治療看護援助論 母性看護学演習Ⅰ 母性看護学演習Ⅱ 小児看護学演習Ⅰ 成人看護学演習Ⅰ 老年看護学特論Ⅳ（看護実践論） 老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護） 公衆衛生看護学演習Ⅰ 在宅看護学演習Ⅰ 災害看護援助論
〈研究者ｺｰｽ〉1)	実践に即した研究課題を明確にし、適切な方法を選択して研究に取り組むことができる。 看護実践の経験の中から自ら解明したい課題を明らかにして、文献検索・検討を通して先 行研究の成果を理解したうえで、自らの課題解明のために適切な研究方法を選択して研究に取り組むことができる。	看護研究Ⅰ（総論） 看護研究Ⅱ（統計） 基礎看護学特別研究 精神看護学特別研究 母性看護学特別研究 小児看護学特別研究 成人看護学特別研究 老年看護学特別研究 公衆衛生看護学特別研究 在宅看護学特別研究 災害看護学特別研究
〈研究者ｺｰｽ〉2)	看護職の教育的機能を理解し、現任教育や基礎教育に関わることができる。 看護実践における健康教育や患者教育等の看護職の教育的機能を理解し、実践の場における現任教育や看護専門学校や大学教育など基礎教育に関与することができる。	看護教育論 看護管理論 老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価） 老年看護学演習Ⅱ（ケア施設における老年看護）

※カリキュラムポリシー（CP）はP.36を参照してください。

	2年次
	リエゾン精神看護学
	基礎看護学演習Ⅱ
	小児看護学演習Ⅱ
	成人看護学演習Ⅱ
	公衆衛生看護学演習Ⅱ
	在宅看護学演習Ⅱ
	防災・減災看護論演習
	要援護者看護援助論
	災害看護連携論
	老年看護学特論Ⅴ（サポートシステム）

14-2　看護学研究科看護学専攻　博士前期課程　専門看護師コース

ディプロマポリシー		1年次
〈共通〉 1）	看護実践を科学的・論理的に探求できる。 看護実践に潜む経験知を大切にしながらも、根拠に基づく看護を目指して、看護現象を科学的・論理的に探求できる。	看護理論 臨床薬理学 フィジカルアセスメント 最新病態生理学 老年看護学特論Ⅰ（老年看護学の基盤） 老年看護学特論Ⅲ（病態・治療論） 災害看護対象論 災害と制度
〈共通〉 2）	高い倫理性を身につけ、看護の質向上に関与できる。 看護職者としての誇りと高い自覚に基づいて、常に理想の看護を探求しながら、人間と命の尊厳を遵守し、絶えず看護実践・研究・教育の質の向上に関与できる。	哲学的人間論 ― 看護倫理 老年看護学特論Ⅳ（看護実践論） 国際看護論 コンサルテーション論 老年看護学特論Ⅳ（看護実践論） 精神障害者制度・法律特論 老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護） 災害看護ケア論 災害看護援助論
〈専門看護師コース〉 1）	高度な専門知識と技能を有し、基本的な研究力を修得している。 学士課程教育の基盤の上に高度な知識を持ち、生涯を通して学修を継続する力と新たな知識を常に修得する姿勢・態度を有している。また研究活動において、情報を駆使しアイデアを発展させ、応用する創造力を修得している。	看護研究Ⅰ（総論） ― 看護研究Ⅱ（統計） 精神療法 精神科薬物療法 認知症治療看護援助論 精神看護学課題研究 老年看護学課題研究 災害看護学課題研究
〈専門看護師コース〉 2）	高度な実践を遂行できる力と協働する力を修得している。 高度で普遍性のある教養を身につけ、知識を統合する能力を有し、自らの知識や理解を適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、また人間と命に対する尊厳についての深い理解のもと、他分野と連携し複雑な課題を解決し高度な実践を遂行できる力を修得している。	看護教育論 精神科診断・治療実習 コンサルテーション論 老年看護学演習Ⅱ（ケア施設における老年看護） 精神科アセスメントと精神科診断学 精神看護高度実践看護介入技法 災害看護学実習Ⅰ 精神看護直接ケア実習 災害看護ケア論
〈専門看護師コース〉 3）	グローバルな視点をもち、地域に根ざして行動する力を身につけている。 現代社会が直面する医療問題の解決に挑戦するために、多様な文化・制度等を理解し、学際的・国際的に通用する専門知識・技能及び自らの考えをもち、それらを専門家にも一般の人々にも、明確に伝えることができるコミュニケーション力及び行動力を身につけている。	精神障害者制度・法律特論 看護政策論 老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価） 災害と制度
〈専門看護師コース〉 4）	地域社会を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。 自らの知識と技能及び問題解決能力を、専門分野において、またより広い学際的な領域において発揮し、地域社会における制度設計や変革を牽引するリーダーシップ力と調整力を身につけている。	看護管理論 精神障害者ケースマネジメント支援論

※カリキュラムポリシー（CP）はP.36を参照してください。

	2年次
	老年看護学実習Ⅰ（慢性期における高度実践老 老年看護学実習Ⅱ（ケア施設における高度実践老年看護）
	リエゾン精神看護学 精神看護サブスペシャリティ実習 要援護者看護援助論 災害看護学実習Ⅱ
	役割開発実習 防災・減災看護論演習 災害看護学実習Ⅲ 災害看護学実習Ⅳ
	老年看護学特論Ⅴ（サポートシステム） 災害看護連携論 相談・調整実習

14-3　看護学研究科看護学専攻　博士後期課程

	ディプロマポリシー	1年次
1)	人間と命の尊厳に対する深い理解と看護現象に対する洞察力ならびに自立して研究を遂行できる研究力を修得している。 人間の健康に関わる諸現象を対象とする看護実践は、人間への深い理解と命の尊厳を遵守することを基盤にした長い歴史をもつ営みであり、それを支える看護学は、実践の質を高めるための研究の成果によって成り立っている。これらに関与できる博士後期課程修了者は、看護現象を自立して探求し続けることのできる研究力を修得している。	看護科学哲学 基礎看護学特論(＊1)/理論看護学特論(＊2) 精神看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 老年看護学特論 公衆衛生看護学特論 在宅看護学特論 災害看護学特論 看護学特別研究
2)	健康問題／課題解決に向けて、グローバルな視点で探求し教育できる力を修得している。 多様化・複雑化している人々の健康問題・課題に対して、学際的なグローバルな視点に立って探求するとともに、人々への健康教育をはじめ現職者や看護学生への教育に関与することのできる教育力を修得している。	看護教育学 基礎看護学特論 精神看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 老年看護学特論 公衆衛生看護学特論 在宅看護学特論 災害看護学特論
3)	看護学の発展に寄与するとともに、研究結果を国内外に向けて発信できる力を身につけている。 諸学問の中での看護学は発展途上にあることを理解し、その発展に寄与するとともに、看護学の研究成果を国内のみならず海外に発信し、国際的なコミュニケーションを拡大できる力を身につけている。	看護学研究方法論 ― 高等社会統計学 看護学特別研究

＊1:令和6年度以降入学生対象
＊2:令和5年度以前入学生対象

※カリキュラムポリシー（CP）はP.36を参照してください。

2年次	3年次
基礎看護学演習（＊1）/理論看護学演習（＊2） 精神看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 老年看護学演習 公衆衛生看護学演習 在宅看護学演習 災害看護学演習	

学則・諸規程等

四天王寺大学大学院学則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/61_ingakusoku.pdf

四天王寺大学大学院履修規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/91_daigakurisyukitei.pdf

四天王寺大学学位規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/62_ingakui.pdf

四天王寺大学大学院研究生及び特別研究生に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/94_inkenkyusei.pdf

四天王寺大学大学院長期履修生に関する規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/95_inchokirisyu.pdf

四天王寺大学大学院修士及び博士学位論文の審査基準に関する細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/63_inronbunsinsa.pdf

四天王寺大学大学院課程博士学位授与に関する細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/64_ingakui.pdf

四天王寺大学大学院課程を経ない者への博士学院授与に関する細則
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/65_hakasegakui.pdf

四天王寺大学ティーチング・アシスタント実施要領
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/97_ta.pdf

四天王大学機関リポジトリ運用規程
https://ibunet2.shitennoji.ac.jp/ibu/kitei/98_ripojitori.pdf

令和７年度　履修要覧

発　行　四天王寺大学大学院
編　集　教　務　部
住　所　〒583-8501
大阪府羽曳野市学園前3-2-1
ＴＥＬ　072-956-3181（代）